第４章　施策の展開

１　基本目標・施策・主な取組み

基本目標１　学びを通じた地域課題の「自分ゴト化」

《目指す姿》
●市民が自分のまちの課題を知り、自分ゴトと受け止め、地域活動や市民活動に興味関心を持っています。

《現状と課題》
●アンケート調査では、「ほとんど（近所）付き合いがない」との回答が、主に 40 代までの若い世代や中心市街地に住む人において高くなっています。
●一方で、地域の福祉課題への関心は高く、また、生活課題等について学ぶ機会への意思については、「学びたい」との回答が半分以上見られています。

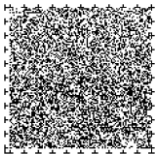
《施策展開の方向性》
●市民一人ひとりが支え手、受け手を超えた「シアエル関係」を築くためには、まず、わたしたち自身が地域で起きている様々な問題を知り、学び、自分ゴトとして受け止めていく必要があります。
●そのため、あらゆる機会を捉えてこうした学びを促進するとともに、様々な地域課題を発見・解決・共有する仕組みを構築していきます。
●また、市民一人ひとりが地域課題を知り、自分ゴトとして受け止めていくことで、地域のさまざまな課題に興味を持ち、その興味関心から「何かをやってみたい」という思いにつながるような取組みを進めていきます。

上記を踏まえ、生涯学習などを通じて、地域の課題を自分ゴトとして捉えられるような仕組みを構築します。

施策１－①「学び」や「気づき」が増える取組み【重点項目】

施策１－②「地域課題」を発見・解決・共有する仕組みづくり

施策１－③「やってみたい」につながるきっかけづくり



施策１－①「学び」や「気づき」が増える取組み【重点項目】

私たちの身の回りには、大小さまざまな地域課題があります。過疎化による地域の担い手不足のように、社会構造と密接に関連しているような地域課題もあれば、不登校やひきこもりのように、かつては主に家庭の問題とされていたものが、近年、社会全体の問題と認識されはじめているようなものもあります。

こうした地域課題を、自分には関係ない「他人事」としていては、助け合う気持ちも生まれにくく、豊かな地域社会は形成されません。

地域課題を「自分ゴト」として受け止めていくためには、まず、こうした地域課題があることを「学び」、私たちの身の回りで起きていることに「気づく」ことが何よりも大切です。

また、互いの立場や生活を理解し、あいさつやちょっとした声掛けを通じ、気軽に「助けて」が言い合えるような地域にしていくことで、みんながより生きやすい地域社会が形成されていきます。

そのため、様々な機会を通じてこうした学びや気づきにつなげていくとともに、より気軽に「助けて」が言い合えるような社会の形成に取り組んでいきます。

主な取組みの内容

取組項目	取組内容	主な担当課
あらゆる場を通じた人権教育・啓発の推進	人権教育・人権啓発指導者研修会、人権フェスティバル等を実施し、人権問題に対する正しい理解と認識を深め、人権尊重意識の高揚を図ります。	人権男女共同参画課
主体的な学びの促進	青少年期から生涯学習に取り組む意識を醸成するとともに、自ら気づき学ぶ意欲が喚起されるよう、「主体的な学びの促進」に取り組んでいきます。	生涯学習課
豊かな心を育む福祉教育の推進	総合的な学習の時間等を活用し、福祉について学ぶことで、支え合いの大切さを知り、地域共生社会を形成していくような豊かな心を育みます。	指導課
気軽に「助けて」が言い合える相互理解の促進（「受援力」の向上）	市民一人ひとりが「支え手」「受け手」を超えた「シアエル関係」を構築していくためには、それぞれの立場や生活を理解したうえで、気軽に「助けて」と言い合えるような地域社会にしていく必要があります。 そのため、現役世代や次世代を担う若い世代も含め、市民の受援力向上につなが	地域共生推進課

	るようなセミナーや出前講座等を実施します。	

成果指標

評価項目	単位	目標値		
		令和５年度（現状値）	令和８年度（中間値）	令和 11 年度（目標値）
青少年期の生涯学習パスポートのうち、まなぶちゃんノートの奨励者達成率	%	28.1	34	40
受援力向上のための研修等	回/年	4	4	4

施策１－②「地域課題」を発見・解決・共有する仕組みづくり

地域課題を自分ゴトとしていくためには、私たちの住む地域の中にある課題の共有を図るだけでなく、他の地域の取組みを学び、自らの地域にも生かしていくことが大切です。

また、本市には４つの大学が立地していることから、大学の知見を活用して地域課題の発見や解決を目指したり、生成ＡＩをはじめとする DX を活用し、地域課題を発見・抽出したりするような取組みも有効です。特に、大学や DX を上手に活用することで、私たちが見過ごしがちな課題、いわゆる「潜在化している課題」を浮き彫りにしていく効果も期待できます。

こうした取組みを連携させつつ行うことにより、市や社会福祉協議会、関係機関だけでなく、広く市民と地域課題を発見・解決・共有していく仕組みを作っていきます。

主な取組みの内容

取組項目	取組内容	主な担当課
地域のコア人材による地域課題を発見・解決・共有する仕組みの構築	市全域、日常生活圏域、小学校圏域それぞれにおいて、住民自治協議会、地区社協、民生委員、市民活動団体等の多様な主体による地域課題を発見・解決・共有する場を創出するとともに、地域課題を集約し、課題解決のための施策につなげていきます。	地域共生推進課
大学連携による地域課題の発見・解決	市内の大学の知的・人的資源を活用し、市と大学が共に研究に取り組む「ＣＯＭＭＯＮプロジェクト」を推進し、地域課題解決を目指します。 また、大学生が地域を学び、地域活動に	政策推進監 医療保健課

取組項目	取組内容	主な担当課
	参画することを促進し、学生の地域への愛着心を育てるとともに、地域の活性化につなげます。	
DX を活用した地域課題の抽出及び地域課題を施策につなげる仕組みづくり	生成ＡＩを活用した各種計画やデータのアーカイブ化など、ＤＸを活用して地域課題の抽出や共有につなげていけるよう、試験的に取り組んでいきます。	DX 推進監 地域共生推進課
	社会福祉協議会と連携して地域共生社会推進本部を運営することにより、地域課題解決のための施策化を図ります。	地域共生推進課

成果指標

評価項目	単位	目標値		
		令和５年度（現状値）	令和８年度（中間値）	令和 11 年度（目標値）
日常生活圏域における地域関係者ネットワーク協議会の開催	件/年	10	10	10
COMMON プロジェクトの認定件数（累計）	件	34	45	60

施策１－③「やってみたい」につながるきっかけづくり

「学びや気づきが増える取組み」や、「地域課題を発見・解決・共有する仕組みづくり」を通じ、地域課題をより身近に感じていくと、次第に「自分にも何かできることはないか」という気持ちが芽生えてきます。

こうしたとき、身近な地域で実際に活躍されている方や、取組みを始めるまでの経緯、やり方などを見たり聞いたりすることで、「自分にもできそう」「やってみたい」の気持ちがより強くなっていくことがあります。

そのため、様々な機会を通じて、こうした「やってみたい」につながるきっかけづくりとなる学びの場を創出していくとともに、広報紙、SNS 等を通じて情報発信に取り組んでいきます。

主な取組みの内容

取組項目	取組内容	主な担当課
地域課題解決につながる学習機会の充実	学習機会の提供については、これまで「主催講座の増加」により、様々な分野の学習機会を増やすことを主としてきましたが、今後は、これまで以上に地域課題の解決につながる学習機会の充実を図るとともに、主体的な学びを促進します。	生涯学習課
	労働者協同組合や協同労働など、持続可能な地域福祉活動を推進するための新たな取組みについて、市民活動団体等が学びを深めることができるような機会を創出します。	地域共生推進課 地域づくり推進課
地域で輝く人材の周知・情報発信	地域で活躍している個人や市民活動団体を、広報紙や各種ウェブサイト、民間の広報媒体で広く周知することにより、取組みのきっかけやコツなどを共有し、市民の「やってみたい」につなげます。 また、SNS 等を活用し、地域の活動情報をタイムリーに発信するとともに、地域共生の理念や実際の活動内容等について、市民に親しみやすい情報発信（マンガなど）を進めることで、様々な活動に興味関心を持てるようなきっかけづくりにつなげます。	地域共生推進課

成果指標

評価項目	単位	目標値		
		令和５年度（現状値）	令和８年度（中間値）	令和 11 年度（目標値）
地域課題の解決に向けた講座の占める割合	%	11	16	20
民間の広報媒体を活用した情報発信（延べ回数）	回／年	5	5	5

基本目標２　みんなの「やってみたい」を応援

《目指す姿》
●地域課題解決に向けて「何かをやってみたい」と思った市民が、地域の多様な主体や、市、社会福祉協議会等の応援により、活発に活動しています。

《現状と課題》
●アンケート調査では、自治会活動などの地域活動を行っているとの回答が半数以上ある一方で、時間が無い、参加するきっかけがないなどで地域活動に参加したことが無いという回答もありました。
●市民と行政の関係について、住民も行政も協力しあい、福祉の充実に取り組むべきとの回答が多く、また、地域活動の担い手としての活動希望は、可能な範囲で活動してみたいという回答が多くみられたことから、地域課題解決に取り組む意思のある人を支援する体制が必要となっています。

《施策展開の方向性》
●「何かをやってみたい」と思っても、実際に活動するのは簡単ではありません。また、活動を継続したり、より良くしていくためには、多くの人や団体の協力が必要になることもあります。
●そのため、市民の「やってみたい」という思いが「やってみた」という行動につながるよう、また「続けたい」「もっと良くしたい」という思いに応えられるような支援をしていきます。

上記を踏まえて、地域課題について興味・関心のある人がアクションを起こしやすい環境や、地域の関係者とともに地域課題解決に貢献する仕組みを構築します。

施策２－①「やってみたい」から「やってみた」につながる支援

施策２－②「続けたい」「もっとよくしたい」に応える支援

施策２－③インフォーマルな助け合いの促進と居場所づくり【重点項目】

施策２－①「やってみたい」から「やってみた」につながる支援

私たちは、新聞やテレビ、インターネット、市や関係機関等が行う講演会等を通じ、日々、様々な情報に接しています。

かなしい事件に触れて心を痛めたり、こどもや障がい者のために力強く活動されている方から勇気をもらったりしながら、「私も何かやってみたい、困っている人の力になりたい」と思うこともありますが、日々の多忙の中で、その思いが行動につながらないこともままあります。

一人ではなかなかできないことも、志を同じくする人が集まったり、誰かのサポートを受けたりすることで、実際の取組みにつながることもあります。

本市は、社会福祉協議会をはじめ様々な機関と連携しながら、市民一人ひとりの「やってみたい」に寄り添い、その思いが「やってみた」につながるよう、様々な応援をしていきます。

主な取組みの内容

取組項目	取組内容	主な担当課
地域課題解決につながる市民活動の立上げ支援	地域課題解決に取り組みたい市民や団体を応援するため、市民活動団体やNPO法人等の設立支援を行うとともに、こうした団体が、CSR に取り組む企業や財団等、各種支援先につながっていけるような伴走支援体制を整備します。	地域づくり推進課
	個別支援とコミュニティ支援を一体的に実施する専門職であるＣＳＷを各日常生活圏域に配置することにより、市民や各種団体の「やってみたい」をいち早くキャッチし、関係機関との連携により「やってみた」につながるよう支援します。	地域共生推進課
	市民や各種団体の「やってみたい」について、市や社会福祉協議会、関係機関が出席する「地域共生ワーキング会議」において共有を図るとともに、こうした機関の連携により「やってみた」につなげる支援をしていきます。	地域共生推進課 地域づくり推進課 生涯学習課
地元企業や学生、児童生徒との協働促進	民間企業と連携し、企業活動の中での見守り活動等を推進するほか、既存の就労支援では対応が困難な方の、自己肯定感の向上につながる社会参加支援（参加支	地域共生推進課

取組項目	取組内容	主な担当課
	援事業）の受け皿としての協力を促進します。	
	学生と地域や市民活動団体等との連携促進を図るため、コーディネーターによる相談対応やシンポジウムの開催などを通じ、学生の地域活動と地域のマッチングなどを行います。	政策推進監 地域づくり 推進課
	各学校が地域との協働により、地域の一員として自分にできることを考える学習を実施することで、次代のまちづくりを担う人材養成を推進します。	指導課 （小中学校） 各所属 （高等学校等）
ワーク・ライフ・バランスの推進	ワーク・ライフ・バランスに関する講座を実施するほか、産業カウンセラー、キャリアコンサルタントの資格を持つ相談員を配置し、仕事上の悩みや起業等についての相談を受け付け、適切なアドバイス、必要な情報提供を行います。	人権男女共同参画課
	市職員において、時差出勤や勤務時間の伸縮を可能とするフレックスタイム制等の柔軟な勤務形態の導入・運用を行い、職員の多様な働き方を促進するとともに、地域貢献活動ができるように体制を整えます。	職員課

成果指標

評価項目	単位	目標値		
		令和５年度 （現状値）	令和８年度 （中間値）	令和 11 年度 （目標値）
市民協働センター 登録団体数	団体	334	400	470 （R12）
参加支援事業（既存の就労が困難な方の社会参加の場）の協力法人数	者	５	１１	１７
地域との協働活動に取り組んでいる学校数	校	全ての小中学校 （もみじ小中学校を除く）	全ての小中学校 （もみじ小中学校を除く）	全ての小中学校 （もみじ小中学校を除く）

施策２－②「続けたい」「もっとよくしたい」に応える支援

様々な活動を「やってみた」人や団体が、それを継続したり、より良くしていったりすることは、とても大変なことです。

本市はこれまで、平成 22（2010）年に策定した市民協働のまちづくり指針及び行動計画に基づき、市民と行政の協働によるまちづくりを進めてきました。この間、住民自治協議会をはじめ、市民活動団体や各種団体の皆さまのご尽力により、地域では様々な分野の取組みが進められているところです。

今後も、こうした活動の継続や改善に向けた取組みを支援し、様々な市民活動が行われる豊かな地域社会を形成していきます。

主な取組みの内容

取組項目	取組内容	主な担当課
住民自治協議会をはじめとする地域コミュニティの活動支援	住民自治協議会の特色あるまちづくりや地域課題解決の取組みを促進するため、「地域づくり推進交付金」を交付します。	地域づくり推進課
	地域活動のデジタル化を促進し、住民自治協議会の情報発信の強化や事務負担の軽減に取り組み、住民自治協議会への加入率向上を図ります。	地域づくり推進課
	「元気輝きポイント制度」により、高齢者の社会参加につながる活動の創出を図ります。また、高齢者の地域活動の効果を広く周知し、活動の立上げや参加に対する意欲の向上を図ります。	地域包括ケア推進課
テーマコミュニティの活動支援	市民活動団体の地域課題の解決や、特性を活かしたまちづくりを目的とした主体的な活動を応援するため、「市民協働のまちづくり活動応援補助金」を交付します。	地域づくり推進課
	身近な地域で子育ての支援を受けたい人と行いたい人が会員登録し、こどもの送迎（保育所（園）、幼稚園、小学校等）、こどもの預かり等、子育てについての助け合いを行う仕組みを運営します。	こども家庭課
	地域（こども）食堂の、立上げ支援や運営者同士のつながりづくりなどを進めます。	地域共生推進課
	東広島イノベーションラボ　ミライノ$^{+}$における創業・起業に向けた取組みや社	産業振興課

	会課題のビジネス解決事業等を通じて、様々なコミュニティの形成を目指します。	
	学びを通して身に付けた知識や能力を、地域や人に活かす「学びから実践への好循環」を目指し、自主サークル団体の養成に取り組みます。	生涯学習課
	「コミュニティ健康運動パートナー」の育成等により、スポーツを通じた健康づくりや地域交流を促進します。	スポーツ振興課
	コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を図るため、地域のネットワークづくりや活動促進に取り組みます。	指導課 青少年育成課
地域人材のマッチング促進	様々な団体が集まる場づくりや講座の開催を通して、多様な主体が交流・連携を図ることができる機会を創出します。	地域づくり推進課
	生涯学習分野における様々なボランティア活動への理解とネットワークの強化を図り、ボランティア活動の推進とともに、市民参画によるまちづくりへの発展等を目的に、ボランティア交流会を実施します。	生涯学習課

成果指標

評価項目	単位	目標値		
		令和５年度（現状値）	令和８年度（中間値）	令和 11 年度（目標値）
まちづくり計画を改定した住民自治協議会数	団体	22	33	48（R12）
住民自治協議会への加入率	%	64.6	67.2	70.0（R12）
東広島イノベーションラボミライノ⁺における取組みを通じて形成されたコミュニティの数	団体/年	5	5	5
市民協働センターの年間利用者数	人	10,760	12,500	14,000（R12）

施策２－③インフォーマルな助け合いの促進と居場所づくり【重点項目】

私たちの住む地域には、高齢者やこども、障がい者、生活が苦しい人、地域から孤立している人、外国人など様々な人がいます。

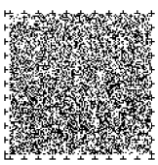
みんなが地域で共に生きていくためには、日頃から互いが気にかけあい、支え合うとともに、多くの人が気軽に利用できる多様な居場所を作っていくことが重要です。また、こうした取組みによる人と人とのつながりは、平時だけでなく、災害時においても有効とされています。

みんなの「やってみたい」が、インフォーマルな助け合いの促進と居場所づくりにもつながるよう支援していきます。

主な取組みの内容

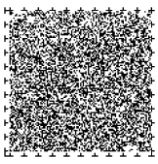
取組項目	取組内容	主な担当課
地域の見守り、支え合い、居場所づくりの促進	CSW、地区担当保健師、地域包括支援センターをはじめとする関係機関との連携により、地域の見守り、支え合い、居場所づくりを促進します。 また、こうした地域活動の共有や水平展開を図るための講演会を開催します。	地域共生推進課
	地域子育て支援センターなどを活用し、子育てサークル・子育てサロンを支援するとともに、子育てに関する様々な情報を収集・提供します。	こども家庭課
	介護予防（フレイル予防）の地域拠点である通いの場や高齢者サロンの立上げ、継続運営の支援を行うほか、地域介護予防等活動応援補助金により、身近なコミュニティの中での支え合い活動の創出と継続を支援します。	地域包括ケア推進課
	認知症の当事者やその家族の外出・社会参加につながる活動を促進するため、認知症支援活動補助金により、認知症カフェや家族会の活動を支援します。	地域包括ケア推進課
	地域全体で児童生徒の見守りを進めるため、地域住民の見守り活動の促進を図るとともに、学校安全ボランティアの養成や、こども１１０番の協力依頼等を推進します。	指導課

取組項目	取組内容	主な担当課
様々な分野におけるサポーターの確保・養成	高齢や子育て、健康づくりなど、各分野で活躍されているサポーターの中には、複数の分野を兼務している方もおられます。 こうした方々に対し、研修の合同開催による負担軽減を図るほか、交流の促進などを通じて他分野への興味関心をもっていただき、様々な分野に対応可能なサポーターのユーティリティ化を図っていきます。	地域共生推進課
多文化共生のまちづくりの推進	言語や文化の壁を超え、市民一人ひとりが安心して暮らし、相互に理解し合えるまちづくりを進めるため、多様な交流機会を創出します。 また、多言語で相談できるコミュニケーションコーナーの運営や、「やさしい日本語」の普及、コミュニケーションシートやピクトグラムの活用等、様々な手段により意思疎通ができるよう取り組みます。	市民生活課
災害時における助け合いの促進	災害時における被害の防止または軽減を図るため、地域住民または施設の関係者等による自主的な防災組織（自主防災組織）の組織化を支援するとともに、地域防災のリーダーを養成し、地域の特性に応じた防災講演や防災訓練等を実施します。	危機管理課
	災害時に自力で避難することが困難な住民の円滑かつ迅速な避難の確保を図るため、避難行動要支援者に対する避難支援プランの策定を促進するとともに、避難訓練の実施や必要に応じた個別避難計画の見直しなど、実効性のあるものとなるよう取り組みます。	地域共生推進課 障がい福祉課 地域包括ケア推進課 介護保険課 危機管理課
	災害時、一般の避難所では避難生活が困難な住民に配慮した福祉避難所を確保するとともに、受入体制の充実を図ります。	地域共生推進課 危機管理課



成果指標

評価項目	単位	目標値		
		令和５年度（現状値）	令和８年度（中間値）	令和 11 年度（目標値）
見守り会議の設置数	箇所	20	80	140
ファミリー・サポート・センター活動件数	件	3,874	4,110	4,491
市が関係する国際交流活動参加者の満足度の割合	%	－	77	80
避難行動要支援者避難支援プラン（個別計画）策定率	%	55.1	75	90



基本目標３　「誰一人取り残さない」相談支援の充実

《目指す姿》
●困ったときに、相談機関や身近な地域住民など、誰かに気軽に相談できる体制が整っており、問題を一人で抱え込んだり、地域から孤立したりするような市民がいません。

《現状と課題》
●アンケート調査では、困ったときの相談先として家族、友人が多く、市の関係機関の窓口の割合は相対的に低くなっています。
●一方、地域で困ったときに、すぐに相談できる先があると良いという意見が多くの圏域で見られ、相談窓口が分からない、相談できる人がおらず事態が深刻化しているといった声も聞かれます。
●そのため、家族などの相談先以外に、身近な相談窓口を設置するなど、気軽に相談できる仕組みが必要となっています。

《施策展開の方向性》
●普段の生活で困ったことがあったときに、一人で抱え込まずに気軽に相談でき、解決に向けて寄り添ってくれる人が身近にいれば、これほど心強いことはありません。
●そのため、市や社会福祉協議会をはじめとする関係機関が連携し、困っている当事者を起点とした、制度の狭間のない相談支援体制を構築するほか、地域との連携により孤独・孤立の予防や解消のための取組みを進めます。

上記を踏まえて、困ったときに気軽に相談できるような相談支援体制を強化し、誰一人取り残さないような仕組みを構築します。

施策３－①「制度の狭間」のない相談支援体制の構築【重点項目】

施策３－②「当事者」を起点とする多職種連携による支援【重点項目】

施策３－③「小さな声」を聞き逃さない支援

施策３－④「地域で支える」人材の発掘と育成

施策３－①「制度の狭間」のない相談支援体制の構築【重点項目】

困りごとを抱えている世帯の中には、様々な課題が複雑化・複合化することにより、どこに相談すればいいのか分からない方がおられます。また、相談先は分かっていても、時間や場所の都合で、なかなか相談窓口にたどり着かないこともあります。

そのため、各分野の相談支援機能及び総合相談機能を充実させることで、生活上のあらゆる相談に伴走支援できるような体制を構築します。

主な取組みの内容

取組項目	取組内容	主な担当課
福祉の総合調整、総合相談窓口（HOT けんステーション）における相談支援	福祉の総合調整機関である「HOT けんステーション」において、制度の狭間にある方や、複雑化・複合化した生活課題を有する世帯への総合的、包括的な支援調整を実施します。	地域共生推進課
各分野（高齢、障がい、こども子育て、生活困窮等）の相談支援機能の充実	様々な困りごとを抱えた方が支援機関につながりやすくなるよう、各分野（高齢、障がい、こども子育て、生活困窮等）の相談支援について、より身近な地域における相談窓口の充実や、アウトリーチ支援を推進します。	各窓口担当課
身近な地域における相談支援の充実（地域共生センター構想の推進）	制度の狭間にある方や複雑化・複合化した生活課題を有する世帯の増加に加え、専門職をはじめとする地域人材のより一層の不足に対応していくため、日常生活圏域において、分野を超えて地域をまるごと支援していくような体制の整備が求められています。 こうした取組みを「地域共生センター構想」とし、今後、本構想の将来的な実現に向けた検討を進めていきます。	地域共生推進課

成果指標

評価項目	単位	目標値		
		令和５年度（現状値）	令和８年度（中間値）	令和 11 年度（目標値）
日常生活の困りごとを相談できる相手が家族以外にいると答えた人の割合	%	85.9	87.0	88.0

「地域共生センター構想」について

本市はこれまで、高齢者支援や子育て支援を中心に、身近な地域において相談支援が受けられる体制を構築するため、地域包括支援センターや地域すくすくサポートなどの充実を図ってきました。

加えて、令和２（2020）年度に、制度の支援を受けられない方や、多種多様な生活課題により困っている世帯を支援するため、福祉の総合相談・総合調整機能を担う「東広島市 HOT けんステーション」を設置するとともに、日常生活圏域ごとに個別支援と地域支援を一体的に行う CSW を配置するなどにより、地域の見守りや支え合い、居場所づくりの活動に取り組んできました。

また、令和４（2022）年度からは、多職種連携による連携体制づくりのために、日常生活圏域ごとに保健福祉の相談支援にかかわる者を中心としてコアネットワーク会議を開催してきました。

しかしながら、生産年齢人口のさらなる減少が見込まれる中で、既に、保健師や社会福祉士等をはじめとする専門人材の確保が困難になりつつあり、今後、こうした傾向はより一層加速していくことが想定されます。

そのため、分野ごとの人材を養成していくことに加えて、今後は、１０か所の日常生活圏域において、保健師や社会福祉士等の専門職※同士がお互いの業務をカバーし合い、分野や官民を超え、地域に暮らすこども、障がい者、高齢者など全ての方を支援していくような体制の整備が必要になってきます。

本市では、こうした取組みを「地域共生センター構想」と称し、今後本構想の将来的な実現に向け、検討を進めていきます。

※専門職…保健師、社会福祉士、介護支援専門員、精神保健福祉士、公認心理師、保育士、こども家庭ソーシャルワーカーなどを想定している。

施策３－②「当事者」を起点とする多職種連携による支援【重点項目】

複雑化・複合化した困りごとを抱えている世帯の中には、各種法令や支援制度が縦割りであることなどから、支援者同士の連携がない、または不十分なまま支援がなされることがあります。

世帯支援に関わる関係機関が日常的に連携していくことにより、制度起点ではなく、市民起点、当事者起点による伴走支援体制を構築していきます。

主な取組みの内容

取組項目	取組内容	主な担当課
各日常生活圏域における専門職の連携体制の充実	日常生活圏域ごとに設置している、多職種によるネットワーク体制（コアネットワーク会議）のさらなる充実により、困りごとを抱えている当事者に対し、チームアプローチによる伴走支援をしていきます。	地域共生推進課 各窓口担当課
各分野における福祉、医療、保健の連携体制構築	各分野における基幹機能を充実させることで、各支援機関に対する支援（支援者支援）を充実させるとともに、高度人材の養成につなげていきます。	各窓口担当課

成果指標

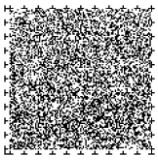
評価項目	単位	目標値		
		令和５年度（現状値）	令和８年度（中間値）	令和 11 年度（目標値）
コアネットワーク会議に参加する機関の数（10 か所の日常生活圏域の平均）	機関	10	12	14

施策３－③「小さな声」を聞き逃さない支援

困りごとを抱えている方の中には、地域からの孤立や孤独、セルフネグレクト、虐待を受けているこどもや高齢者、障がい者など、周囲に分かるように「助けて」が言えない方、言い出しづらい方がおられます。

一方で、私たちが地域住民として生活していく中で、ちょっとした変化やサインなどから、こうした状況に気づくことがあります。

本市では、こうした市民の気づきを丁寧に受け止めるとともに、関係機関や地域住民



との連携を図ることで、「小さな声」を聞き逃さず、必要な支援につなげていきます。

主な取組みの内容

取組項目	取組内容	主な担当課
孤独・孤立対策の推進	地域からの孤立や、望まない孤独にある方に対し、地域とのつながりの場を提供し、エンパワメントを目指す社会的処方の取組みを推進します。 また、こうした取組みを進めていくため、支援拒否やセルフネグレクト、ごみ屋敷や動物の多頭飼いなどの課題についても、地域との連携による伴走支援により解決を目指していきます。	地域共生推進課 各窓口担当課
ひきこもり状態にある方への支援	ひきこもり状態にある方とその家族に対し、アウトリーチを含めた相談支援、家族支援、居場所づくり支援、就労等の社会参加支援を包括的に推進します。	地域共生推進課
虐待防止、虐待への対応と保護者・養護者支援	児童虐待、高齢者虐待、障がい者虐待の対応を行っている部署が連携し、虐待事例に対応できる体制を整備します。 また、「要保護児童対策地域協議会」や「東広島市高齢者及び障害者に係る虐待防止ネットワーク委員会及び東広島市障害者差別解消支援地域協議会」、「権利擁護関係者会議」の開催により、虐待防止に向けた体制の強化を図ります。	こども家庭課 地域包括ケア推進課 障がい福祉課

成果指標

評価項目	単位	目標値		
		令和５年度（現状値）	令和８年度（中間値）	令和 11 年度（目標値）
ひきこもりの家族支援教室参加者数	人（延べ）	0	18	36
地域包括支援センターにおける総合相談延件数	件	38,512	41,855	次期地域包括ケア計画（R9～11）において設定
要保護児童対策地域協議会マネジメントケースの終結移行率	%	69.4	71.0	72.5

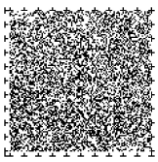
施策３－④「地域で支える」人材の発掘と育成

私たちの住む地域には、民生委員児童委員や地区社協など、地域の見守りや地域福祉を推進している方々がおられます。また、様々な悩みを抱えている人の中には、当事者同士の支え合いにより、より前向きな生活が可能になる場合もあります。

こうした「地域で支える」人材を支援していくことで、様々な分野に携わる方が活動しやすくなり、ひいては新たな人材の発掘や養成につながるよう取り組みます。

主な取組みの内容

取組項目	取組内容	主な担当課
民生委員児童委員等の支援	地域の見守りや市民からの相談対応など、地域福祉の中心的な担い手である民生委員児童委員の活動を支援するほか、様々な広報媒体を活用した活動の周知により、民生委員児童委員や地区社協としての活動が推進しやすくなる地域づくりに努めます。	地域共生推進課
ピアサポートの促進	障がいやひきこもり、不登校、LGBTQ＋など、共通の悩みを持つ方々が互いに支え合うピアサポート活動の促進を図ります。	各担当課
【再掲】地域の見守り、支え合い、居場所づくりの促進	CSW、地区担当保健師、地域包括支援センターをはじめとする関係機関との連携により、地域の見守り、支え合い、居場所づくりを促進します。 また、こうした地域活動の共有や水平展開を図るための講演会を開催します。	地域共生推進課
	地域子育て支援センターなどを活用し、子育てサークル・子育てサロンを支援するとともに、子育てに関する様々な情報を収集・提供します。	こども家庭課
	介護予防（フレイル予防）の地域拠点である通いの場や高齢者サロンの立上げ、継続運営の支援を行うほか、身近なコミュニティの中での支え合い活動の創出と継続を支援します。	地域包括ケア推進課
	認知症の当事者やその家族の外出・社会参加につながる活動を促進するため、認知症	地域包括ケア推進課



取組項目	取組内容	主な担当課
	カフェや家族会の活動を支援します。	
	地域全体で児童生徒の見守りを進めるため、地域住民の見守り活動の促進を図るとともに、学校安全ボランティアの養成やこども１１０番の協力依頼等を推進します。	指導課
【再掲】様々な分野におけるサポーターの確保・養成	高齢や子育て、健康づくりなど、各分野で活躍されているサポーターの中には、複数の分野を兼務している方もおられます。 こうした方々に対し、研修の合同開催による負担軽減を図るほか、交流の促進などを通じて他分野への興味関心をもっていただき、様々な分野に対応可能なサポーターのユーティリティ化を図っていきます。	地域共生推進課

成果指標

評価項目	単位	目標値		
		令和５年度（現状値）	令和８年度（中間値）	令和 11 年度（目標値）
見守り会議の設置数	箇所	20	80	140
ファミリー・サポート・センター活動件数	件	3,874	4,110	4,491
民生委員児童委員の充足率	%	97.5	全国平均以上	全国平均以上

基本目標４　地域で「健幸」に暮らせるための基盤づくり

《目指す姿》
●市民一人ひとりが、必要なサービスを適切に利用しつつ、心身の健康だけでなく、社会的にも満たされた「健幸」な状態でいきいきと生活しています。

《現状と課題》
●地域の高齢者支援や子育て支援などが市の施策として求められています。
●時代の変化に伴い、地域課題も変化しており、複雑化・複合化した課題を抱える世帯が増えています。

《施策展開の方向性》
●生活上の困りごとを解決するためには、様々な分野のサービスが整っていることに加え、時代の変化などにより、新たに見えてきた社会課題についても対応していく必要があります。
●そのため、高齢や障がい、こども子育てや生活困窮など、各分野におけるサービスを充実していくとともに、移動に困難を抱える方の支援や居住支援など、既存のサービスだけでは解決が困難な課題についても支援を進めていきます。

上記を踏まえて、市民一人ひとりが地域課題に対応しつつ、必要なサービスを受けることで、健幸に暮らせるような基盤づくりを行います。

施策４－①「分野ごとの制度・サービス」の充実・深化【重点項目】

施策４－②「生活のしづらさ」を改善する取組みの推進

施策４－③「みんなにやさしいまち」の整備

施策４－①「分野ごとの制度・サービス」の充実・深化【重点項目】

地域で「健幸」に暮らしていくためには、日頃からの気にかけあいや様々な居場所の確保、気軽に相談でき速やかに連携して対応する体制の構築なども大切ですが、一方で、各分野の制度やサービスそのものが充実していくことも必要です。

高齢、障がい、こども子育て、生活困窮などの各制度をより充実・深化していくとともに、これらの共通する基盤となる健康づくりを推進し、より健幸に暮らせるまちを目指していきます。

主な取組みの内容

取組項目	取組内容	主な担当課
高齢者支援（包括、介護）のさらなる充実	高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、様々なニーズに応じた支援サービス（高齢者福祉サービス、配食サービス及び安否確認、養護老人ホームへの措置入所等）を実施します。 また、福祉養成校や市内介護事業所との関係強化を推進するとともに、介護職の魅力向上・理解促進等に努め、介護人材の確保・養成・定着を図ります。	地域包括ケア推進課 介護保険課
障がい者支援のさらなる充実	障がいのある人が安心して生活できるよう、障がい福祉制度等について、障がいの特性に応じた分かりやすい情報発信や情報提供に努めるとともに、ニーズに応じた適切な利用の促進を図ります。 また、大学等との連携や資格取得のための助成金等により、障がい福祉人材の確保・養成・定着を図ります。	障がい福祉課
こども子育て支援のさらなる充実	全てのこどもと親への妊娠・出産期から子育て期までの切れ目のない支援を行う、東広島版ネウボラのさらなる充実を図ります。 また、こどもの育ちを支える教育・保育サービスの充実を図るとともに、保育人材の確保・養成・定着を図ります。	こども家庭課 保育課
生活困窮者支援のさらなる充実	生活困窮者に対して、生活保護制度による支援を行うほか、生活困窮者自立支援制度に基づき、自立相談支援をはじめとする各種相談支援や、住居を失うおそれ	地域共生推進課 生活福祉課

	のある方に対する家賃補助等を行います。 また、生活困窮者等に対する就労支援を行うとともに、基本的な生活習慣や社会的能力の形成などの就労準備支援を行います。 生活困窮世帯等の児童生徒に対しては、個別の学習機会の確保や居場所の提供として、訪問型学習支援及び集合型学習支援を実施します。	
健康づくりの推進	健康に関する正しい知識を普及し、健康への関心を高めるとともに、市民、教育機関、企業・事業所等と連携して地域ぐるみで、心とからだの健康づくりを推進します。	医療保健課

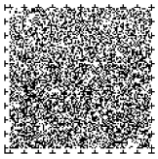
成果指標

評価項目	単位	目標値		
		令和５年度 （現状値）	令和８年度 （中間値）	令和 11 年度 （目標値）
主観的幸福感の高い高齢者の割合 （ニーズ調査） （在宅介護実態調査）	%	46.7 34.9 （R4）	50.0 41.1 （R7）	次期地域包括ケア計画（R9～11）において設定
障がい者の施設入所者の地域生活への移行率	%	2.2	5.9	次期障がい者計画（R9～11）において設定
初妊婦の妊娠期サービスの利用割合	%	73	―	90
生活保護世帯、生活困窮世帯における希望者の高校進学率	%	100	100	100

施策４－②「生活のしづらさ」を改善する取組みの推進

高齢者を中心に、運転免許証の返納により日々の移動が困難になったり、単身でアパートを借りることが困難であったりするなど、「生活のしづらさ」ともいうべき課題が発生しています。

こうした「生活のしづらさ」の改善を図るため、全国の事例などを参考にしつつ、地域



で「健幸」に暮らしていくための取組みを進めていきます。

主な取組みの内容

取組項目	取組内容	主な担当課
移動に困難を抱える方に対する移動支援	地域特性に応じた移動手段を確保する等、利便性の高い公共交通ネットワークの形成・維持に努めます。 路線バス及び地域交通全体の利用者数は減少傾向にありますが、健康面、環境面、安全面、コスト面等の視点を踏まえ、公共交通を「地域で守り、支える」モビリティ・マネジメントの充実・強化を図ります。	交通政策課
	高齢者については、移送サービスによる通院や買い物などの外出支援、ＮＰＯ法人等による福祉有償運送事業による福祉移送サービスの充実、インフォーマルな支え合い（互助）活動による移動支援など、介助を必要とする高齢者の外出支援の充実を図ります。 障がい者については、その程度に応じてタクシー券助成やＮＰＯ法人等による福祉有償運送の促進等、様々な場面で利用できる移動手段の確保を図るとともに、行動援護事業、同行援護事業、移動支援事業等、外出を支援するサービスの利用を促進します。	地域包括ケア推進課 障がい福祉課
住宅確保要配慮者に対する居住支援	高齢者をはじめとする住宅確保要配慮者がスムーズに住居を確保し、地域で安心して生活ができるよう、市、不動産事業者、居住支援法人等の関係機関による居住支援協議会を設立し、研修や情報共有を図りつつ、必要な施策について検討していきます。	住宅課 地域共生推進課

成果指標

評価項目	単位	目標値		
		令和５年度（現状値）	令和８年度（中間値）	令和 11 年度（目標値）
公共交通（鉄道・路線バス・地域公共交通）の利用者数	人／日	28,811	29,033	29,333
居住支援法人の数	者	９	13	19

施策４－③「みんなにやさしいまち」の整備

地域で「健幸」に暮らしていくためには、様々なサービスの充実だけでなく、施設などが使いやすいことも重要です。

このため、適切に施設の維持管理を図るとともに、ユニバーサルデザインに基づく環境整備を図っていきます。

主な取組みの内容

取組項目	取組内容	主な担当課
福祉施設の維持管理	市民の生活文化の向上や、社会福祉の増進、保健活動の充実のため、総合福祉センター及び地域福祉センターの維持管理を図るほか、自立支援型グループホーム（ひだまりの家グループハウス）を管理運営します。 施設の維持管理にあたっては、公共施設等総合管理計画に基づき、適切な維持、計画的な改修等を進めます。	地域共生推進課 地域包括ケア推進課
ユニバーサルデザインに基づく環境整備	公共施設に使いやすいトイレを整備していくなど、障がいや疾病等の有無にかかわらず、誰もが快適に、また、安全に生活することができるよう、ユニバーサルデザインのまちづくりに継続的に取り組みます。	全所属 障がい福祉課

成果指標

評価項目	単位	目標値		
		令和５年度（現状値）	令和８年度（中間値）	令和 11 年度（目標値）
福祉センター利用者の施設満足度	%	83.7	87.0	90.0

2　日常生活圏域の今後の方向性

【地域別の基本情報及びヒアリング結果等】

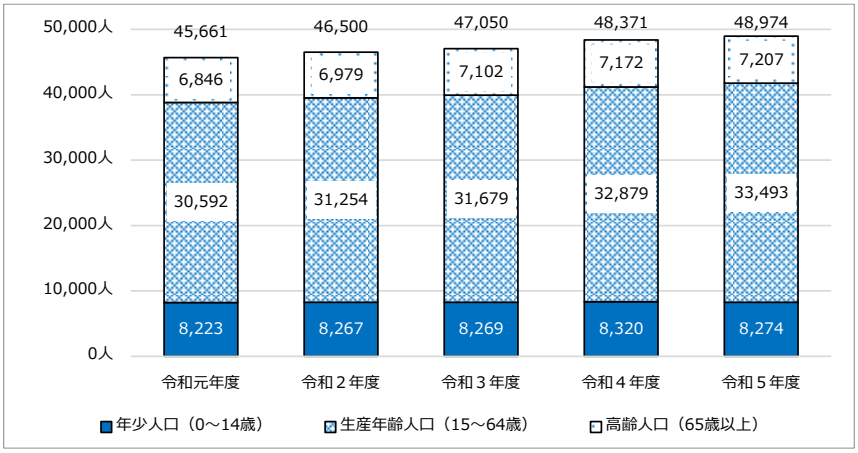
圏域	圏域の特徴
西条北	市の中心部に位置し、都市機能の集積に伴い都市化が進んでいる。高齢化率が低く、人口増加が続いている。

■地域の概要

○人口・世帯に関する基本情報（令和６（2024）年３月末時点）

人口（圏域内総人口）	48,974 人	男女別人口	男性：24,988 人	女性：23,986 人
世帯数	23,766 世帯	単独世帯		11,382 世帯
年少人口（15 歳未満）	8,274 人	年少人口割合		16.9%
生産年齢人口（15～64 歳）	33,493 人	生産年齢人口割合		68.4%
高齢者人口（65 歳以上）	7,207 人	高齢化率（高齢者人口割合）		14.7%
内、65～74 歳人口	3,243 人	65～74 歳人口割合		6.6%
内、75 歳以上人口	3,964 人	75 歳以上人口割合		8.1%
外国人住民数	3,068 人	外国人住民割合		6.3%
0 歳児人数	480 人			

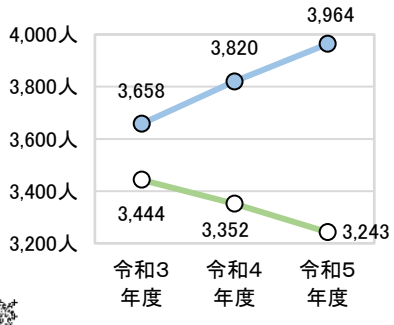
＜圏域内総人口の推移＞



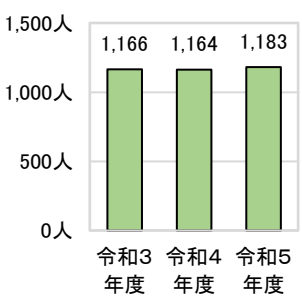
資料：住民基本台帳（各年度３月末）

＜高齢者の状況＞

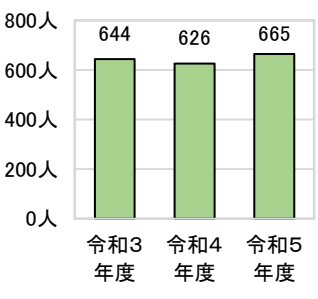
①高齢者数



②要介護認定者数



③認知症高齢者数（自立度Ⅱ以上）



資料：①住民基本台帳、②③東広島市介護保険台帳　各年度３月末

■西条北地域カルテ（地域活動・地域資源）

＜地域資源の状況＞

住民自治協議会	5	見守りサポーター	106
地域センター	4	子育てサポーター※1	27
集会所	2	フレイル予防アドバイザー	21
高齢者サロン	11	生涯学習推進員（全市対応）	1
通いの場	26	スポーツ推進委員	7
こども食堂・地域食堂	3	コミュニティ健康運動パートナー	16
住民主体の支え合い活動	2	健康づくり推進委員	0
民生委員児童委員	39	スーパーマーケット	13
主任児童委員	2	コンビニエンスストア	20

＜子育て関係資源＞

地域すくすくサポート	2	子育て支援センター	9
児童館	1		

＜保育施設等＞

保育所（保育園）	12	幼稚園	3
認定こども園	5	その他(小規模保育事業・認可外保育施設)	10

＜教育関連施設＞

小学校	5	高等学校	1
中学校	2	大学	0
図書館	1	芸術文化施設	4
学習支援施設	1	スポーツ施設	0

＜高齢者関連施設（抜粋）＞

地域包括支援センター	1	居宅介護支援事業所	14
特別養護老人ホーム	1	介護老人保健施設	2
特定施設入居者生活介護	4		

＜障がい者関連施設（抜粋）＞

障がい者（児）相談支援事業所	4	生活介護	4
共同生活援助（グループホーム）	3		

＜医療機関＞

病院	7	歯科診療所	30
診療所	40		

＜防災関連施設＞

避難所※2	15	避難行動要支援者名簿登録者数※1	832
福祉避難所	1		

※1　西条地区全体のデータ

※2　指定する公設避難所に自主避難所を加えた数値（以降、同様）

＜住民主体の支え合い活動※1＞

名称	実施主体	開始時期	活動範囲	活動内容
鴨ケ池くらしサポートクラブ	鴨ケ池団地有志	H26.4	鴨ケ池団地	庭木の伐採・剪定、草刈り、土のう積み、家屋の修理、粗大ごみの搬出等
平岩つながり隊※2	生活福祉部会	R4.10	平岩	粗大ごみの搬出、簡単な掃除、草取り、電池・電球交換、話し相手など

※1　令和６（2024）年１月31日時点。社会福祉協議会が把握している範囲の活動

※2　西条北圏域と八本松圏域が対象

■住民から見た地域

＜地域懇談会での意見など＞

- 地域の高齢化を感じており、地域の担い手もまた高齢者。困っていることを高齢者がサポートすることは難しいと感じている。
- 地域での活動がたくさんあることを知ることができた。一方で、こうした情報は、働いている人は知らない人が多いのではないか。
- これまで現役で仕事をしていた人に、リタイア後になって急に「地域に出よう」といっても出にくい。いきなり担い手ではなくて、何かもっと緩やかに始められたら良い。
- 男性は地域交流が苦手な方が多いように感じる。「交流しよう」と持ち掛けても難しいので、興味関心があることを探り、楽しく気軽に地域に出て貰えたら良いのではないか。
- 子育てサロンのニーズは高いと思われる。

＜地域に関する課題と考えられるアンケート調査結果＞

【市民】

- 町内会･自治会への加入状況が 44.3%と低い（全市 67.4%）
- 近所･地域の人との付き合いの程度は、「あいさつをする程度の人がいる」は 33.7%だが、「ほとんど付き合いがない」が 29.4%と全市（17.1%）に比べ高い
- 地域の行事や町内活動などへの参加状況では、「自治会活動」が 29.8%（全市 45.6%）となっているが、「参加したことがない」が 49.0%と全市（33.7%）より高い
- 地域の福祉で今後重要と思う取組みは、「地域の子育て支援」（37.3%）が最も高く、全市（31.6%）に比べ高い
- 住んでいる地域の問題や課題では、「こどもの遊び場が少ない」（34.9%）が最も高く、次いで「世代間の交流や付き合いが少ない」（27.3%）「住民同士の助け合い活動が少ない」（22.2%）

【小中学生】※西条地区全体のデータ

- 地域活動への参加状況については、「地域のお祭りなど」は 61.6%で、全市（83.8%）に比べると低く、「自治会、こども会、老人クラブ等の活動･行事」も 17.2%で、全市（30.7%）に比べ低い
- 近所で会話する大人の有無について、「あいさつする人がいる」（51.5%）が全市（56.4%）に比べやや低く、「そのような人はいない」は 9.1%となっている

・地域の印象として地域の人同士の助け合いが多いかについて、「そう思う」（36.4％）が全市（51.3％）に比べ低い
・地域の印象としてお祭りやこどもが参加できるイベントがあるかについて、「そう思う」（51.5％）が全市（77.1％）に比べ低い

＜第 10 次東広島市高齢者福祉計画・第 9 期東広島市介護保険事業計画策定時に頂いた意見、調査結果＞

・「ボランティア」「町内会･自治会」の地域参加が全市に比べて低い
・ご近所同士の交流や助け合いなどについては、「自治会などによる地域活動がある」（33.6％）が全市（43.4％）に比べて低い
・徒歩圏内に通いの場があり、利用しやすい環境だが、転入者などにその情報が行き渡らない課題がある
・移動手段では、車以外に「徒歩」「自転車」「電車」が全市と比べると高い

■西条北圏域の主な地域課題を踏まえた取組みの方向性

《課題》

市中心部で、様々な資源や人材（外国人含む）が集積しているものの、地域活動への参加が低調であり、また、分野を超えた地域資源同士の協働や、多文化・多世代交流等が不十分

《取組みの方向性》

【施策 2-①「やってみたい」から「やってみた」につながる支援】
・地元企業や学生、児童生徒との協働促進

【施策 2-②「続けたい」「もっとよくしたい」に応える支援】
・住民自治協議会をはじめとする地域コミュニティの活動支援

【施策 2-③インフォーマルな助け合いの促進と居場所づくり】
・多文化共生のまちづくりの推進

《課題》

住宅団地やマンション等が増加しており、転入転出者も多いことなどから、自治会加入率の低下が見られるなど、住民同士のつながりが希薄

《取組みの方向性》

【施策１-①「学び」や「気づき」が増える取組み】
・気軽に「助けて」が言い合える相互理解の促進（「受援力」の向上）

【施策 3-③「小さな声」を聞き逃さない支援】
・孤独・孤立対策の推進

【施策３-④「地域で支える」人材の発掘と育成】
・地域の見守り、支え合い、居場所づくりの促進

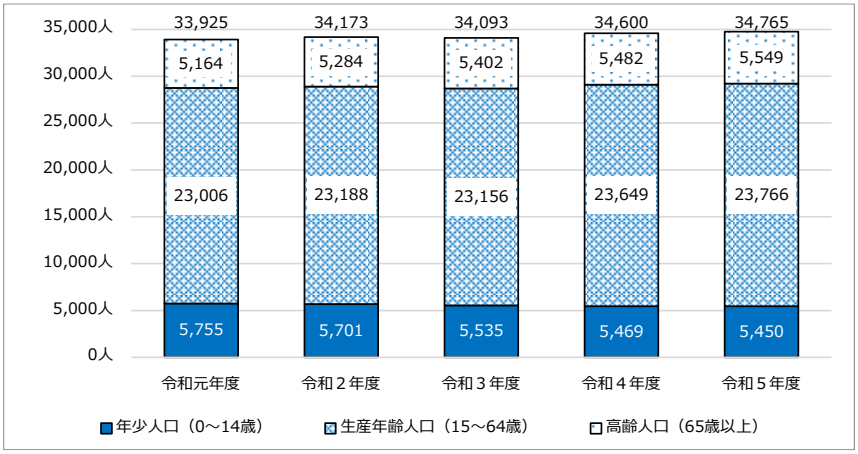
圏域	圏域の特徴
西条南	市の中央部の南に隣接し、サイエンスパークや広島大学等の学術研究施設、大型商業施設等の豊富な社会資源を有しており、地域課題の解決などで協力・連携による取組みが期待される地域となっている。

■地域の概要

○人口・世帯に関する基本情報（令和６（2024）年３月末時点）

人口（圏域内総人口）	34,765 人	男女別人口	男性：18,047 人	女性：16,718 人
世帯数	17,216 世帯	単独世帯		8,525 世帯
年少人口（15 歳未満）	5,450 人	年少人口割合		15.7%
生産年齢人口（15～64 歳）	23,766 人	生産年齢人口割合		68.4%
高齢者人口（65 歳以上）	5,549 人	高齢化率（高齢者人口割合）		16.0%
内、65～74 歳人口	2,559 人	65～74 歳人口割合		7.4%
内、75 歳以上人口	2,990 人	75 歳以上人口割合		8.6%
外国人住民数	1,964 人	外国人住民割合		5.6%
0 歳児人数	283 人			

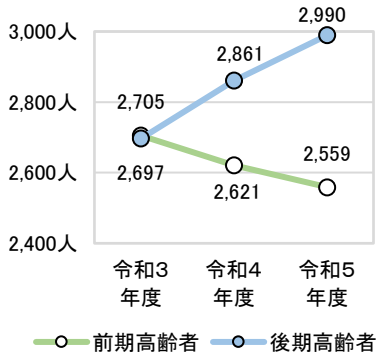
＜圏域内総人口の推移＞



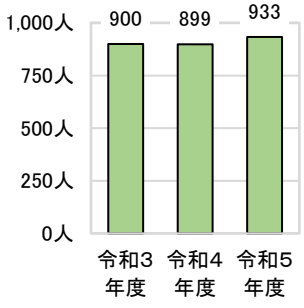
資料：住民基本台帳（各年度３月末）

＜高齢者の状況＞

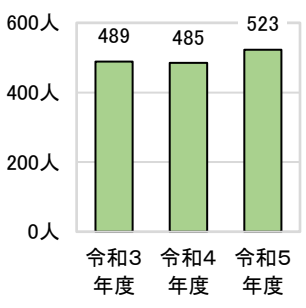
①高齢者数



②要介護認定者数



③認知症高齢者数（自立度Ⅱ以上）



資料：①住民基本台帳、②③東広島市介護保険台帳　各年度３月末

■西条南地域カルテ（地域活動・地域資源）

＜地域資源の状況＞

住民自治協議会	5	見守りサポーター	98
地域センター	4	子育てサポーター※1	27
集会所	18	フレイル予防アドバイザー	16
高齢者サロン	26	生涯学習推進員（全市対応）	1
通いの場	27	スポーツ推進委員	13
こども食堂・地域食堂	4	コミュニティ健康運動パートナー	21
住民主体の支え合い活動	0	健康づくり推進委員	0
民生委員児童委員	37	スーパーマーケット	6
主任児童委員	2	コンビニエンスストア	16

＜子育て関係資源＞

地域すくすくサポート	1	子育て支援センター	3
児童館	0		

＜保育施設等＞

保育所（保育園）	6	幼稚園	1
認定こども園	2	その他(小規模保育事業・認可外保育施設)	5

＜教育関連施設＞

小学校	5	高等学校	1
中学校	2	大学	2
図書館	1	芸術文化施設	4
学習支援施設	1	スポーツ施設	2

＜高齢者関連施設（抜粋）＞

地域包括支援センター	1	居宅介護支援事業所	8
特別養護老人ホーム	2	介護老人保健施設	1
特定施設入居者生活介護	0		

＜障がい者関連施設（抜粋）＞

障がい者（児）相談支援事業所	6	生活介護	3
共同生活援助（グループホーム）	4		

＜医療機関＞

病院	2	歯科診療所	12
診療所	20		

＜防災関連施設＞

避難所	14	避難行動要支援者名簿登録者数※1	832
福祉避難所	3		

※1　西条地区全体のデータ

■住民から見た地域

＜地域懇談会での意見など＞

- 市街地なので何か活動したくても場所の制約がある。
- 転入者が多い地域。そこで繋がりを持つためには会話が必要。
- あいさつできる地域にすることが大事。
- 転入者が孤立しない地域にしたい。（日中は家にいるお母さんがいて、孤立していないか心配。）
- 必要とする方に紹介できるよう、常に地域のイベント情報を集めておくことが大切。
- 大きなイベントも良いが、こぢんまりとした小さなイベントは、より負担なく開催できるので考えていきたい。

＜地域に関する課題と考えられるアンケート調査結果＞

【市民】

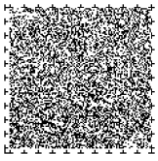
- 近所･地域の人との付き合いの程度は、「あいさつをする程度の人がいる」は 31.2%で、「ほとんど付き合いがない」が 25.5%と全市（17.1%）に比べ高い
- 地域に愛着を感じている割合（「愛着を感じている」「どちらかといえば愛着を感じている」の合計）が 71.8%と全市（76.9%）より低い
- 地域の行事や町内活動などへの参加状況では、「自治会活動」が 33.6%（全市 45.6%）となっているが、「参加したことがない」が 46.7%と全市（33.7%）より高い
- 住んでいる地域の問題や課題では、「こどもの遊び場が少ない」（27.6%）が最も高く、次いで「住民同士の助け合い活動が少ない」（22.8%）「通院･買物などの移動手段が十分ではない」（22.7%）「世代間の交流や付き合いが少ない」（22.0%）

【小中学生】※西条地区全体のデータ

- 地域活動への参加状況については、「地域のお祭りなど」は 61.6%で、全市（83.8%）に比べると低く「自治会、こども会、老人クラブ等の活動･行事」も 17.2%で、全市（30.7%）に比べ低い
- 地域の印象として地域の人同士の助け合いが多いかについて、「そう思う」（36.4%）が全市（51.3%）に比べ低い
- 地域の印象としてお祭りやこどもが参加できるイベントがあるかについて、「そう思う」（51.5%）が全市（77.1%）に比べ低い
- 家や学校以外の居場所について「祖父母･親戚の家や友達の家」（71.0%）が全市（65.3%）に比べ高く、また「ショッピングセンターやファストフードなどのお店」（43.5%）も全市（31.8%）に比べ高い

＜第 10 次東広島市高齢者福祉計画・第 9 期東広島市介護保険事業計画策定時に頂いた意見、調査結果＞

- 戸建て点在エリアでは近所づきあいが密（声かけ･回覧板手渡し）
- 人口集中地域では他県からの転入者が多く、外に連れ出すのが課題
- 御薗宇や西条中央では近所づきあいが少ない
- 移動スーパーは、地区の中心部には行くが、中心部外では訪問頻度が減少傾向



・インフォーマルなサービスとして配食弁当の抱き合わせによる安否確認や薬の管理、テーブルセッティング、電球の交換サービスや、20 分程度ワンコインの有償ヘルパー等がある
・圏域の中でも、交通や商業の面で便利な地域と、そうではない地域とがある

■西条南圏域の主な地域課題を踏まえた取組みの方向性

《課題》

市中心部で、商業施設が集積し、地域内に大学が立地しているなど、若い世代も多く暮らし、多様な資源・人材が豊富であるが、こうした資源・人材を生かした活動が不十分

《取組みの方向性》

【施策 1-②「地域課題」を発見・解決・共有する仕組みづくり】

・地域のコア人材による地域課題を発見・解決・共有する仕組みの構築
・大学連携による地域課題の発見・解決

【施策 2-①「やってみたい」から「やってみた」につながる支援】

・地域課題解決につながる市民活動の立上げ支援
・地元企業や学生、児童生徒との協働促進

《課題》

転入転出者も多いことなどから、自治会加入率の低下が見られるなど、住民同士のつながりが希薄

《取組みの方向性》

【施策１-①「学び」や「気づき」が増える取組み】

・気軽に「助けて」が言い合える相互理解の促進（「受援力」の向上）

【施策 3-③「小さな声」を聞き逃さない支援】

・孤独・孤立対策の推進

【施策３-④「地域で支える」人材の発掘と育成】

・地域の見守り、支え合い、居場所づくりの促進

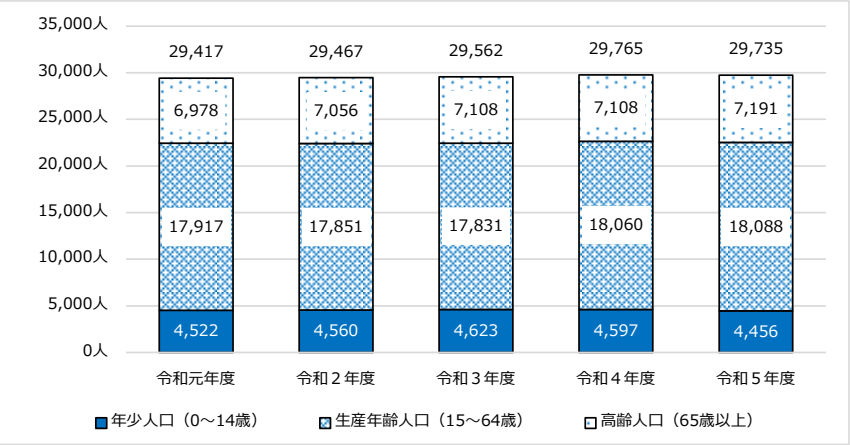
圏域	圏域の特徴
八本松	市中心部の西側に位置し、工場や企業が多く、商業施設も多く立地している。宅地造成による若い世代の人口増加の進む地域と、高齢化が進む既存の住宅団地、田園地帯が広がる地域が混在するなど、圏域内でも異なる地域特性が併存する地域となっている。

■地域の概要

○人口・世帯に関する基本情報（令和６（2024）年３月末時点）

人口（圏域内総人口）	29,735 人	男女別人口	男性：14,970 人	女性：14,765 人
世帯数	13,837 世帯	単独世帯		5,603 世帯
年少人口（15 歳未満）	4,456 人	年少人口割合		15.0%
生産年齢人口（15～64 歳）	18,088 人	生産年齢人口割合		60.8%
高齢者人口（65 歳以上）	7,191 人	高齢化率（高齢者人口割合）		24.2%
内、65～74 歳人口	3,101 人	65～74 歳人口割合		10.4%
内、75 歳以上人口	4,090 人	75 歳以上人口割合		13.8%
外国人住民数	1,577 人	外国人住民割合		5.3%
0 歳児人数	231 人			

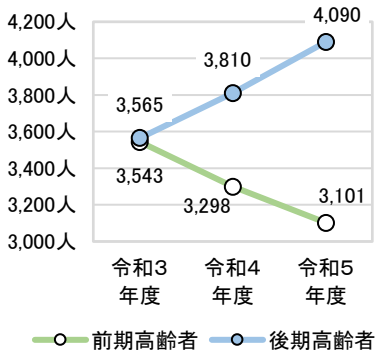
＜圏域内総人口の推移＞



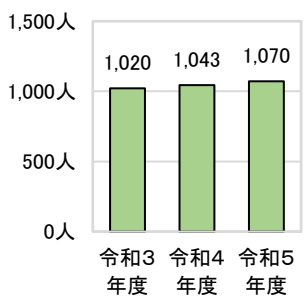
資料：住民基本台帳（各年度３月末）

＜高齢者の状況＞

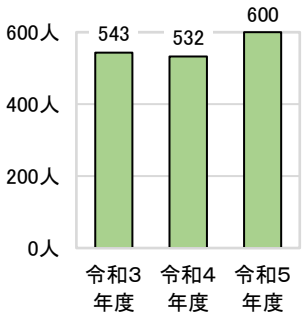
①高齢者数



②要介護認定者数



③認知症高齢者数（自立度Ⅱ以以上）



資料：①住民基本台帳、②③東広島市介護保険台帳　各年度３月末

■八本松地域カルテ（地域活動・地域資源）

＜地域資源の状況＞

住民自治協議会	4	見守りサポーター	113
地域センター	4	子育てサポーター	6
集会所	17	フレイル予防アドバイザー	11
高齢者サロン	20	生涯学習推進員（全市対応）	1
通いの場	19	スポーツ推進委員	9
こども食堂・地域食堂	3	コミュニティ健康運動パートナー	16
住民主体の支え合い活動	6	健康づくり推進委員	0
民生委員児童委員	37	スーパーマーケット	3
主任児童委員	2	コンビニエンスストア	10

＜子育て関係資源＞

地域すくすくサポート	2	子育て支援センター	4
児童館	0		

＜保育施設等＞

保育所（保育園）	5	幼稚園	0
認定こども園	4	その他(小規模保育事業・認可外保育施設)	4

＜教育関連施設＞

小学校	4	高等学校	0
中学校	3	大学	0
図書館	0	芸術文化施設	1
学習支援施設	0	スポーツ施設	1

＜高齢者関連施設（抜粋）＞

地域包括支援センター	1	居宅介護支援事業所	5
特別養護老人ホーム	2	介護老人保健施設	0
特定施設入居者生活介護	1		

＜障がい者関連施設（抜粋）＞

障がい者（児）相談支援事業所	4	生活介護	5
共同生活援助（グループホーム）	0		

＜医療機関＞

病院	1	歯科診療所	8
診療所	10		

＜防災関連施設＞

避難所	21	避難行動要支援者名簿登録者数	409
福祉避難所	4		

＜住民主体の支え合い活動※1＞

名称	実施主体	開始時期	活動範囲	活動内容
ご近所ホットお助け隊	八本松みなみ福祉会	H31.4	八本松南 1～3丁目	掃除、買い物代行、日曜大工など
だいせん・絆くらぶ	大山ハイツ自治会	R2.10	大山ハイツ	掃除、買い物代行、日曜大工など
ちゅうおうお助け隊	八本松中央自治会	R3.5	八本松中央	掃除、買い物代行、日曜大工など
正力ほっと・ほっとお助け広場	正力ほっと・ほっとお助け広場	R4.4	正力	掃除、買い物代行、日曜大工など
吉川困り事サポート事業	吉川まちづくり住民自治協議会	H31.4	吉川	庭木の剪定、ごみ出しなど
平岩つながり隊※2	生活福祉部会	R4.10	平岩	粗大ごみの搬出、簡単な掃除、草取り、電池・電球交換、話し相手など

※1　令和６（2024）年１月31日時点。社会福祉協議会が把握している範囲の活動
※2　西条北圏域と八本松圏域

■住民から見た地域

＜地域懇談会での意見など＞

- 助け合い活動を開始し強く感じるのは、地域全体の高齢化。今後、色々な方に協力していただきながら地域全体の活動としていく必要性を感じている。
- 限られたメンバーで対応しているため、支え合い活動の利用を断ったこともあるが、断った後のフォローも大切だと感じた。
- 自分達がこどもだった頃や、子育てをしていた頃より、地域のこどもの数は減っているが、その分、こども一人ひとりを大事に見守れる環境に変化していっていると思う。
- 我が子なら親としての責任感で厳しさが先立つこともあるが、地域のこどもは、しっかりと褒めて育てるような、良い意味での「無責任さ」も大切だと感じた。

＜地域に関する課題と考えられるアンケート調査結果＞

【市民】

- 地域の福祉で満足している取組みでは、「声かけや見守りなどの市民活動」は 18.9%だが、全市（12.1%）より高く、今後重要と思う取組みでも、「声かけや見守りなどの市民活動」（38.2%）が全市（26.0%）に比べ高い
- 安心できる、気軽にいける地域の場所や活動については、「ある」（34.5%）が全市（28.2%）に比べ高い
- 住んでいる地域の問題や課題では、「自治会などの役員のなり手、担い手が少ない」が最も高く（29.3%）、そのほか「こどもの遊び場が少ない」（24.6%）「通院･買物などの移動手段が十分ではない」（21.3%）

【小中学生】

- 地域について、「好き」「どちらかといえば好き」の合計が（94.4%）で、全市（86.7%）、近所で会話する大人の有無について、「あいさつする人がいる」は（63.0%）で、全市（56.4%）、地域の印象として困った時に相談できる大人がいるかについて、「そう思う」

は（83.3%）で、全市（72.9%）、家や学校以外の居場所について、「ある」は（75.9%）で、全市（66.1%）となっており、市内でも割合が高い

＜第 10 次東広島市高齢者福祉計画・第 9 期東広島市介護保険事業計画策定時に頂いた意見、調査結果＞

・ご近所同士の交流や助け合いなどについては、「困りごとへの手助けがある（ゴミ出しなど）」（14.7%）が全市（7.9%）に比べて高い
・エリアが広く、交通や商業の面で便利な地域と、そうではない地域とがある
・地域活動に参加するにも、交通が不便で、参加が難しいケースもある

■八本松圏域の主な地域課題を踏まえた取組みの方向性

《課題》

都市化による団地の増加等から人口は増加傾向にあり、市の中では比較的若い世代の多い地域であるが、高齢の夫婦２人暮らしの割合が高く、将来的に老々介護などが生じるリスクが考えられるため、今後の生活に備えるための学びや活動支援が必要

《取組みの方向性》

【施策１-①「学び」や「気づき」が増える取組み】
・主体的な学びの促進

【施策２-②「続けたい」「もっとよくしたい」に応える支援】
・テーマコミュニティの活動支援

【施策３-④「地域で支える」人材の発掘と育成】
・地域の見守り、支え合い、居場所づくりの促進

《課題》

自治会等による地域の支え合い活動が活発である一方、世代交代を含めた担い手不足の課題があり、活動の水平展開や継続に向けた支援が必要

《取組みの方向性》

【施策１-②「地域課題」を発見・解決・共有する仕組みづくり】
・地域のコア人材による地域課題を発見・解決・共有する仕組みの構築

【施策２-①「やってみたい」から「やってみた」につながる支援】
・地域課題解決につながる市民活動の立上げ支援

【施策２-②「続けたい」「もっとよくしたい」に応える支援】
・住民自治協議会をはじめとする地域コミュニティの活動支援

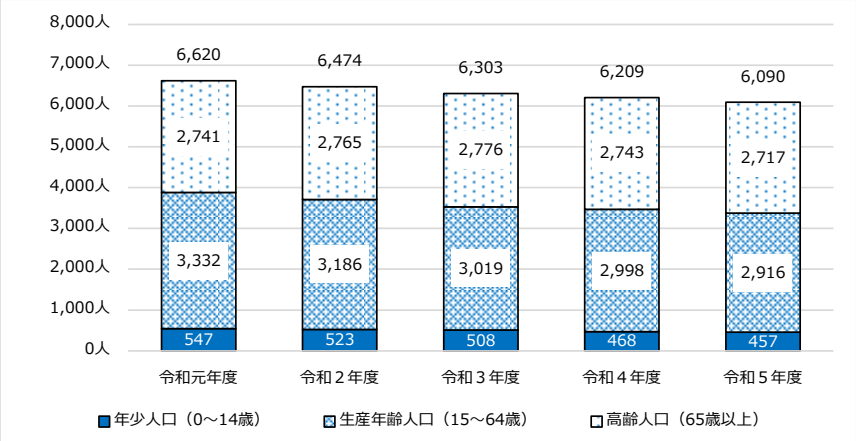
圏域	圏域の特徴
志和	市の北西部に位置し、本市でも有数の農業地域が広がっており、山陽自動車道志和インターチェンジ付近の流通団地や、西志和地区を中心とした地域には、工場等が分散して立地している地域となっている。

■地域の概要

○人口・世帯に関する基本情報（令和６（2024）年３月末時点）

人口（圏域内総人口）	6,090 人	男女別人口	男性：2,977 人	女性：3,113 人
世帯数	3,106 世帯	単独世帯		1,347 世帯
年少人口（15 歳未満）	457 人	年少人口割合		7.5%
生産年齢人口(15～64 歳)	2,916 人	生産年齢人口割合		47.9%
高齢者人口（65 歳以上）	2,717 人	高齢化率（高齢者人口割合）		44.6%
内、65～74 歳人口	1,153 人	65～74 歳人口割合		18.9%
内、75 歳以上人口	1,564 人	75 歳以上人口割合		25.7%
外国人住民数	294 人	外国人住民割合		4.8%
0 歳児人数	17 人			

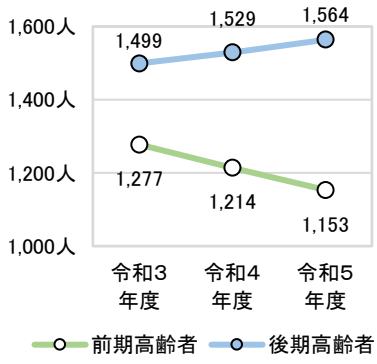
＜圏域内総人口の推移＞



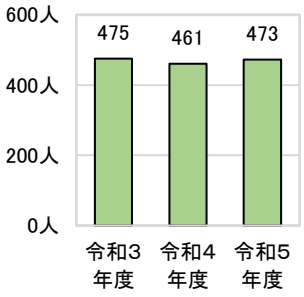
資料：住民基本台帳（各年度３月末）

＜高齢者の状況＞

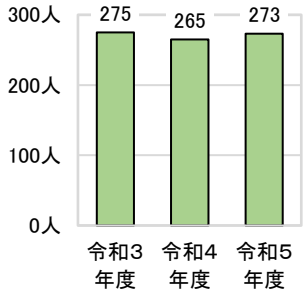
①高齢者数



②要介護認定者数



③認知症高齢者数（自立度Ⅱ以上）



資料：①住民基本台帳、②③東広島市介護保険台帳　各年度３月末

■志和地域カルテ（地域活動・地域資源）

＜地域資源の状況＞

住民自治協議会	3	見守りサポーター	85
地域センター	3	子育てサポーター	4
集会所	0	フレイル予防アドバイザー	3
高齢者サロン	29	生涯学習推進員（全市対応）	1
通いの場	12	スポーツ推進委員	7
こども食堂・地域食堂	1	コミュニティ健康運動パートナー	8
住民主体の支え合い活動	1	健康づくり推進委員	0
民生委員児童委員	21	スーパーマーケット	1
主任児童委員	2	コンビニエンスストア	4

＜子育て関係資源＞

地域すくすくサポート	1	子育て支援センター	2
児童館	0		

＜保育施設等＞

保育所（保育園）	3	幼稚園	0
認定こども園	1	その他(小規模保育事業・認可外保育施設)	0

＜教育関連施設＞

小学校	1	高等学校	0
中学校	1	大学	0
図書館	1	芸術文化施設	4
学習支援施設	0	スポーツ施設	2

＜高齢者関連施設（抜粋）＞

地域包括支援センター	1	居宅介護支援事業所	1
特別養護老人ホーム	1	介護老人保健施設	0
特定施設入居者生活介護	1		

＜障がい者関連施設（抜粋）＞

障がい者（児）相談支援事業所	1	生活介護	2
共同生活援助（グループホーム）	1		

＜医療機関＞

病院	0	歯科診療所	2
診療所	3		

＜防災関連施設＞

避難所	24	避難行動要支援者名簿登録者数	204
福祉避難所	0		

＜住民主体の支え合い活動※＞

名称	実施主体	開始時期	活動範囲	活動内容
二歩生き活きクラブ	二歩地区（男性住民）	R4.4.1	志和東二歩地区	買い物、ごみ出し、草刈りなど

※　令和６（2024）年１月31日時点。社会福祉協議会が把握している範囲の活動

■住民から見た地域

＜地域懇談会での意見など＞

・大小さまざまな企業が集積している地域。もっと地元企業と交流を深めることで地域が賑わうと思う。地域の見守り活動で、地元企業の力を借りるのも良いのではないか。
・外国人（技能実習生）も多い。彼らが孤立しないための声掛け･見守りが大事。相手の国の文化や慣習を知ることや、「やさしい日本語」を学ぶのも一つの手段だと思う。
・保育所とサロンの交流会をやってみたところ、非常に良かった。世代間交流ができるし、保育所がより地域に開かれたものとなった。
・みんなでご飯を食べて交流を図ること、一緒にお茶をする場所など、こども･高齢者を含め誰もが過ごせる居場所が必要ではないか。

＜地域に関する課題と考えられるアンケート調査結果＞

【市民】
・安心できる、気軽に行ける地域の居場所の内容は、全市と同様に「趣味などのサークル活動」（46.0%）が最も高く、その他「身近なサロン･集いの場」（26.6%、全市 14.7%）、「自治会･老人クラブなどの地域活動」（26.4%、全市 14.5%）が、全市に比べ高い
・地域の福祉課題の関心状況は、「関心がある」（「非常に関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計）が 58.6%で、全市（64.5%）に比べ低い
・自主的な支え合い･助け合いの状況について、「できている」（「とてもできている」「どちらかといえばできている」の合計）が 34.8%で、全市（22.2%）に比べ高い

【小中学生】
・地域の印象として困った時に相談できる大人がいるかについて、「そう思う」（61.2%）が、全市（72.9%）に比べ低い
・地域の印象として遊び場や公園などが多いかについて、「そう思わない」（86.6%）が、全市（56.4%）に比べ高い
・家や学校以外の居場所について、「ある」（46.3%）が、全市（66.1%）に比べ低い

＜第 10 次東広島市高齢者福祉計画・第 9 期東広島市介護保険事業計画策定時に頂いた意見、調査結果＞

・家族友人以外の相談先として、「自治会･町内会･老人クラブ」（13.0%）が、全市（7.4%）に比べ高い
・サロンなどの地域活動が活発で、他の地域のサロンに参加する方もいる
・交通が不便なことから、訪問移動販売や、送迎を利用する方も多い

■志和圏域の主な地域課題を踏まえた取組みの方向性

《課題》

人口は減少傾向が続き、高齢化率も令和５（2023）年度末で 44.6%と旧市の中でも高いが、一方では、人口規模に比べ大小さまざまな企業が集積している地域でもあり、地元企業や各種団体と連携したまちづくりを進めていくことが必要

《取組みの方向性》

【施策 1-②「地域課題」を発見・解決・共有する仕組みづくり】

・地域のコア人材による地域課題を発見・解決・共有する仕組みの構築

【施策 1-③「やってみたい」につながるきっかけづくり】

・地域課題解決につながる学習機会の充実

【施策 2-①「やってみたい」から「やってみた」につながる支援】

・地元企業や学生、児童生徒との協働促進

《課題》

北部地域など比較的同規模の日常生活圏域に比べ、外国人住民の割合が高く、また、移住者も増えていることから、こうした方々と地域とのつながりづくりが必要

《取組みの方向性》

【施策１-①「学び」や「気づき」が増える取組み】

・気軽に「助けて」が言い合える相互理解の促進（「受援力」の向上）

【施策 2-③インフォーマルな助け合いの促進と居場所づくり

・多文化共生のまちづくりの推進

【施策 3-③「小さな声」を聞き逃さない支援】

・孤独・孤立対策の推進

【施策３-④「地域で支える」人材の発掘と育成】

・地域の見守り、支え合い、居場所づくりの促進

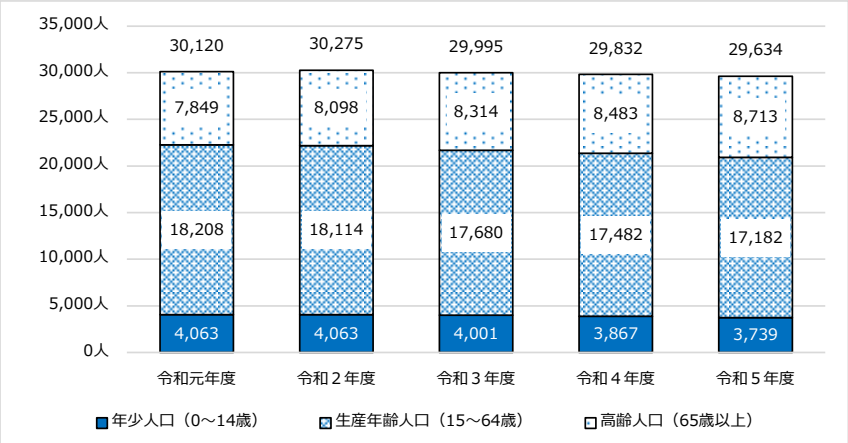
圏域	圏域の特徴
高屋	市中心部の北東に位置し、近畿大学工学部をはじめとする教育機能が集積した都市部と農村部の、特徴の異なる地域を有しており、居住環境としては、駅周辺の一部宅地造成が進む地域と、過疎化が進む集落地域、高齢化が進む郊外型の住宅団地となっている。

■地域の概要

○人口・世帯に関する基本情報（令和６（2024）年３月末時点）

人口（圏域内総人口）	29,634 人	男女別人口	男性：14,648 人	女性：14,986 人
世帯数	12,903 世帯	単独世帯		3,875 世帯
年少人口（15 歳未満）	3,739 人	年少人口割合		12.6%
生産年齢人口（15～64 歳）	17,182 人	生産年齢人口割合		58.0%
高齢者人口（65 歳以上）	8,713 人	高齢化率（高齢者人口割合）		29.4%
内、65～74 歳人口	4,447 人	65～74 歳人口割合		15.0%
内、75 歳以上人口	4,266 人	75 歳以上人口割合		14.4%
外国人住民数	672 人	外国人住民割合		2.3%
0 歳児人数	134 人			

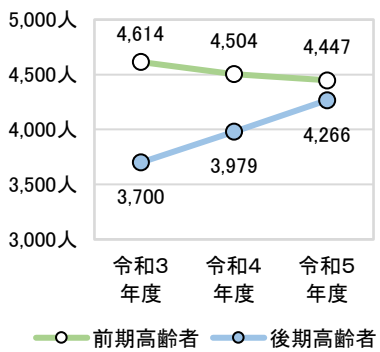
＜圏域内総人口の推移＞



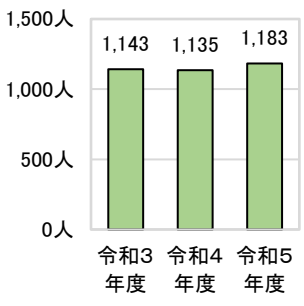
資料：住民基本台帳（各年度３月末）

＜高齢者の状況＞

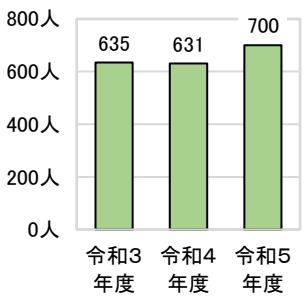
①高齢者数



②要介護認定者数



③認知症高齢者数（自立度Ⅱ以上）



資料：①住民基本台帳、②③東広島市介護保険台帳　各年度３月末

■高屋地域カルテ（地域活動・地域資源）

＜地域資源の状況＞

住民自治協議会	5	見守りサポーター	133
地域センター	5	子育てサポーター	22
集会所	5	フレイル予防アドバイザー	19
高齢者サロン	33	生涯学習推進員（全市対応）	1
通いの場	32	スポーツ推進委員	11
こども食堂・地域食堂	5	コミュニティ健康運動パートナー	28
住民主体の支え合い活動	7	健康づくり推進委員	0
民生委員児童委員	37	スーパーマーケット	5
主任児童委員	2	コンビニエンスストア	9

＜子育て関係資源＞

地域すくすくサポート	1	子育て支援センター	2
児童館	1		

＜保育施設等＞

保育所（保育園）	4	幼稚園	1
認定こども園	2	その他(小規模保育事業・認可外保育施設)	1

＜教育関連施設＞

小学校	5	高等学校	2
中学校	4	大学	1
図書館	0	芸術文化施設	1
学習支援施設	0	スポーツ施設	4

＜高齢者関連施設（抜粋）＞

地域包括支援センター	1	居宅介護支援事業所	4
特別養護老人ホーム	2	介護老人保健施設	0
特定施設入居者生活介護	3		

＜障がい者関連施設（抜粋）＞

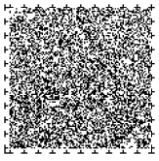
障がい者（児）相談支援事業所	2	生活介護	3
共同生活援助（グループホーム）	1		

＜医療機関＞

病院	0	歯科診療所	11
診療所	19		

＜防災関連施設＞

避難所	15	避難行動要支援者名簿登録者数	401
福祉避難所	2		



＜住民主体の支え合い活動※＞

名称	実施主体	開始時期	活動範囲	活動内容
昭和台サポートセンター	昭和台南団地自治会	H29.10	昭和台南団地内	草取り、庭木の剪定、パソコン操作指導など
里山応援隊	小谷小学校区まちづくり協議会	H29.4	小谷地域	耕作放棄地の草刈り
上条ハイツお助け隊	サロン絆	R2.8	上条ハイツ自治会内	
協力隊	重兼地区		重兼地区	主に草刈
６丁目ニコニコお助け隊	高美が丘６丁目自治会	R3.4	６丁目自治会内	草取り、庭木の剪定、子守り
３丁目ちょっと手伝い隊	高美が丘３丁目ボランティア有志	R5.4	３丁目自治会内	粗大ごみ搬出､庭木の剪定、草刈り、高所作業など
４丁目お助け隊	高美が丘４丁目ボランティア有志	R5.9	４丁目自治会内	ごみ出し、草抜き草刈り、留守中の水やり、屋外掃除など

※　令和６（2024）年１月31日時点。社会福祉協議会が把握している範囲の活動

■住民から見た地域

＜地域懇談会での意見など＞

・自治会にも入らない方も増え、地域活動（草取り）もなくなってきた。こうした機会が顔合わせの機会になっていたと思う。
・高美が丘で、お助け隊（支え合い活動）の一員として活動しているが、これは地域との繋がりの入り口だと思う。地域だけでなく活動者同士のつながりも、これからもっと広がって東広島全体に広がって欲しい。
・お助け活動が広がってきていることが心強い。高齢化が進み必要となってくる取組みだと思う。大変かもしれないが、楽しみながらできると良い。
・昔からの地域と新しい地域があり、コミュニティのつながり方に地域差がある状況もみられる。

＜地域に関する課題と考えられるアンケート調査結果＞

【市民】

・近所･地域の人との付き合いの程度は、「親しく付き合っている人がいる」（29.3%、全市20.9%）「世間話をする程度の人がいる」（30.9%、全市 25.6%）がいずれも、全市に比べ高い
・安心できる、気軽に行ける地域の場所や活動については、「ある」は 25.3%となっており、「今はないが、今後ほしい」（51.8%）が、全市（45.4%）に比べ高い

【小中学生】

・地域の印象として困った時に相談できる大人がいるかについて、「そう思う」（80.3%）が、全市（72.9%）に比べ高い
・地域の印象として遊び場や公園などが多いかについて、「そう思う」（41.0%）が、全市（27.3%）に比べ高い
・家や学校以外の居場所について、「ある」（73.8%）が、全市（66.1%）に比べ高く、居場所の内容について、「祖父母･親戚の家や友達の家」（55.6%）が最も高く、次いで「オンラ

イン空間」（46.7%）と、全市（36.4%）に比べ高い

＜第 10 次東広島市高齢者福祉計画・第 9 期東広島市介護保険事業計画策定時に頂いた意見、調査結果＞

・ご近所同士の交流や助け合いなどについては、「自治会などによる地域活動がある」（49.8%）が、全市（43.4%）に比べ高い
・交通手段が課題である。また、移送サービスの認知度も低いと感じる

■高屋圏域の主な地域課題を踏まえた取組みの方向性

《課題》

大学等を含めた教育機関が多いが、これらの資源と地域との連携が不十分な面もあったことから、今後、これまで以上に教育機関や地元企業と地域との連携を生かしたまちづくりを進めていくことが必要

《取組みの方向性》

【施策 1-②「地域課題」を発見・解決・共有する仕組みづくり】
・大学連携による地域課題の発見・解決

【施策 2-①「やってみたい」から「やってみた」につながる支援】
・地元企業や学生、児童生徒との協働促進

《課題》

お助け隊や地域食堂などの支え合い活動が活発な地域であるが、コミュニティのつながり方に地域差があり、活動を広げていく支援が必要

《取組みの方向性》

【施策 1-②「地域課題」を発見・解決・共有する仕組みづくり】
・地域のコア人材による地域課題を発見・解決・共有する仕組みの構築

【施策 2-①「やってみたい」から「やってみた」につながる支援】
・地域課題解決につながる市民活動の立上げ支援

【施策２-②「続けたい」「もっとよくしたい」に応える支援】
・住民自治協議会をはじめとする地域コミュニティの活動支援

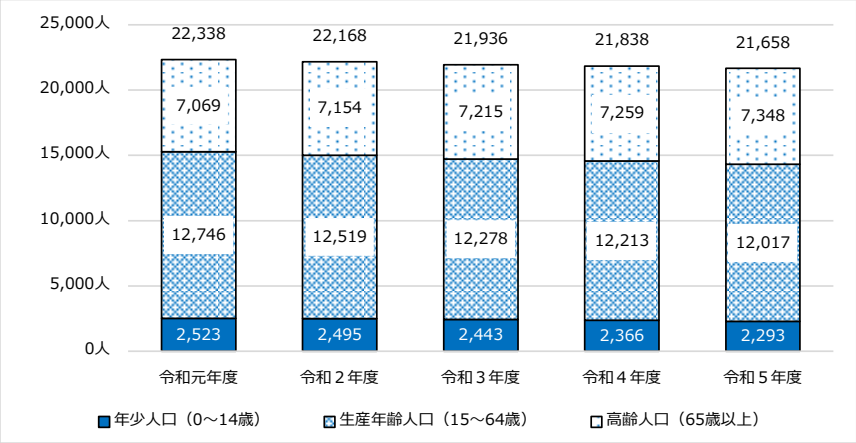
圏域	圏域の特徴
黒瀬	市の南西部に位置し、多くの住宅団地と田園が混在する地域で、広島国際大学や県立黒瀬高等学校が立地し、福祉に関連した地域連携が活発に行われている。

■地域の概要

○人口・世帯に関する基本情報（令和６（2024）年３月末時点）

人口（圏域内総人口）	21,658 人	男女別人口	男性：10,817 人	女性：10,841 人
世帯数	10,519 世帯	単独世帯		4,156 世帯
年少人口（15 歳未満）	2,293 人	年少人口割合		10.6%
生産年齢人口（15～64 歳）	12,017 人	生産年齢人口割合		55.5%
高齢者人口（65 歳以上）	7,348 人	高齢化率（高齢者人口割合）		33.9%
内、65～74 歳人口	3,437 人	65～74 歳人口割合		15.9%
内、75 歳以上人口	3,911 人	75 歳以上人口割合		18.1%
外国人住民数	563 人	外国人住民割合		2.6%
０歳児人数	96 人			

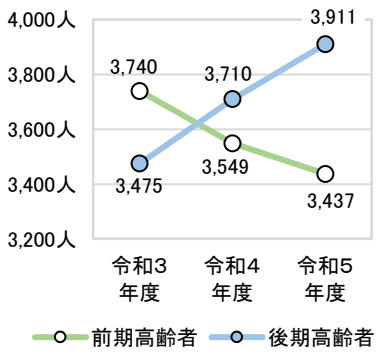
＜圏域内総人口の推移＞



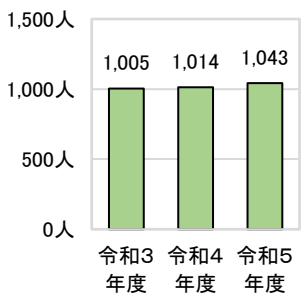
資料：住民基本台帳（各年度３月末）

＜高齢者の状況＞

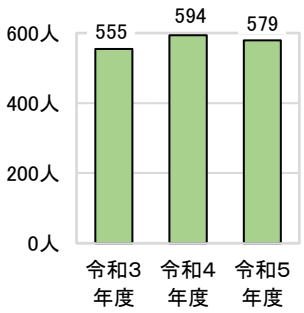
①高齢者数



②要介護認定者数



③認知症高齢者数（自立度Ⅱ以上）



資料：①住民基本台帳、②③東広島市介護保険台帳　各年度３月末

■黒瀬地域カルテ（地域活動・地域資源）

＜地域資源の状況＞

住民自治協議会	5	見守りサポーター	137
地域センター	0	子育てサポーター	4
集会所	3	フレイル予防アドバイザー	20
高齢者サロン	45	生涯学習推進員	3
通いの場	40	スポーツ推進委員	12
こども食堂・地域食堂	2	コミュニティ健康運動パートナー	22
住民主体の支え合い活動	0	健康づくり推進委員	0
民生委員児童委員	49	スーパーマーケット	4
主任児童委員	3	コンビニエンスストア	10

＜子育て関係資源＞

地域すくすくサポート	1	子育て支援センター	2
児童館	1		

＜保育施設等＞

保育所（保育園）	5	幼稚園	1
認定こども園	2	その他(小規模保育事業・認可外保育施設)	1

＜教育関連施設＞

小学校	5	高等学校	2
中学校	2	大学	1
図書館	1	芸術文化施設	0
学習支援施設	1	スポーツ施設	4

＜高齢者関連施設（抜粋）＞

地域包括支援センター	1	居宅介護支援事業所	3
特別養護老人ホーム	1	介護老人保健施設	1
特定施設入居者生活介護	1		

＜障がい者関連施設（抜粋）＞

障がい者（児）相談支援事業所	1	生活介護	1
共同生活援助（グループホーム）	4		

＜医療機関＞

病院	3	歯科診療所	7
診療所	12		

＜防災関連施設＞

避難所	66	避難行動要支援者名簿登録者数	468
福祉避難所	3		

■住民から見た地域

＜地域懇談会での意見など＞

- 以前は学校が地域の身近な交流の場だったが、新型コロナウイルス拡大など様々な事情で、地域と学校の繋がりが希薄になってきているように感じる。
- 学校や、コミュニティホールを中心とした多世代交流の行事を行っていくためにも、若い世代を取り込み、活性化させていきたい。
- 今後は若い世代にも、地域の話し合いの場に参加してもらえるような工夫や関わりを行っていきたい。（負担を少なくするための工夫も、併せて考えていくことが大事。）

＜地域に関する課題と考えられるアンケート調査結果＞

【市民】

- 近所･地域の人との付き合いの程度は、「あいさつをする程度の人がいる」が 38.8%、「ほとんど付き合いがない」は 10.2%で、全市（17.1%）に比べ低い
- 地域の行事や町内活動などへの参加状況では、「自治会活動」が 61.3%と全市（45.6%）に比べ高く、「参加したことがない」は 20.7%で、全市（33.7%）に比べ低い
- 地域の福祉課題への関心について、「非常に関心がある」「どちらかといえば関心がある」の合計が 57.3%と、全市（64.5%）に比べ、地域の福祉課題に「関心がある」の割合が全地区で最も低い
- 住んでいる地域の問題や課題では、「自治会などの役員のなり手、担い手が少ない」が最も高く（33.3%）、次いで「世代間の交流や付き合いが少ない」（21.7%）「通院･買物などの移動手段が十分ではない」（18.9%）

【小中学生】

- 地域について、「好き」「どちらかといえば好き」の合計（77.8%）が、全市（86.7%）に比べ低い
- 近所で会話をする大人の有無について、「あいさつする人がいる」（65.1%）が、全市（56.4%）に比べ高い
- 地域の印象として困った時に相談できる大人がいるかについて、「そう思う」（66.7%）が、全市（72.9%）に比べ低い

＜第 10 次東広島市高齢者福祉計画・第 9 期東広島市介護保険事業計画策定時に頂いた意見、調査結果＞

- 「夫婦２人暮らし（配偶者 65 歳以上）」の割合（48.5%）が全市（42.1%）に比べ高い
- ご近所同士の交流や助け合いなどについては、「さりげない見守りがある」（11.5%）が全市（16.6%）に比べ低い
- 交通手段として、自分で車を運転する必要性が高い
- 新しい団地と、古い団地に様々な年代の人が混在して生活している

■黒瀬圏域の主な地域課題を踏まえた取組みの方向性

《課題》

団地に居住している住民が多く、買い物や通院など、比較的安定した生活が可能であることなどから、地域の福祉課題への関心が全地域でもっとも低い

今後、高齢化等がますます進展していくことから、地域課題を学び、活動につなげていくための支援が必要

《取組みの方向性》

【施策１-①「学び」や「気づき」が増える取組み】

・主体的な学びの促進

【施策 1-③「やってみたい」につながるきっかけづくり】

・地域課題解決につながる学習機会の充実

【施策 2-①「やってみたい」から「やってみた」につながる支援】

・地域課題解決につながる市民活動の立上げ支援

《課題》

通いの場や高齢者サロン、地域食堂等、地域活動が活発で参加率も高い地区であるが、担い手不足が課題であり、今後、担い手不足に対する取組みが必要

《取組みの方向性》

【施策 1-③「やってみたい」につながるきっかけづくり】

・地域で輝く人材の周知・情報発信

【施策 2-②「続けたい」「もっとよくしたい」に応える支援】

・住民自治協議会をはじめとする地域コミュニティの活動支援

・テーマコミュニティの活動支援

《課題》

大学を含めた教育機関との連携を継続的に進めていくことが必要

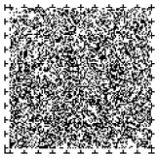
《取組みの方向性》

【施策 1-②「地域課題」を発見・解決・共有する仕組みづくり】

・大学連携による地域課題の発見・解決

【施策 2-①「やってみたい」から「やってみた」につながる支援】

・地元企業や学生、児童生徒との協働促進



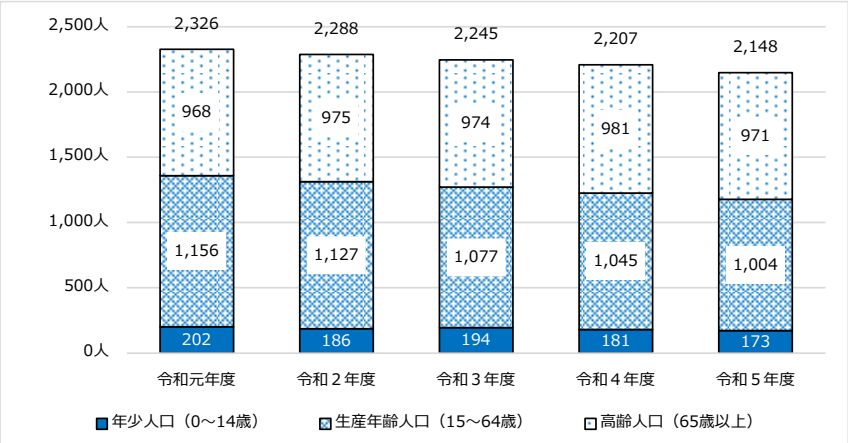
圏域	圏域の特徴
福富	市の北部に位置し、田園風景の中に集落が点在する地域となっている。

■地域の概要

〇人口・世帯に関する基本情報（令和６（2024）年３月末時点）

人口（圏域内総人口）	2,148 人	男女別人口	男性：1,020 人	女性：1,128 人
世帯数	1,032 世帯	単独世帯		398 世帯
年少人口（15 歳未満）	173 人	年少人口割合		8.1%
生産年齢人口（15～64 歳）	1,004 人	生産年齢人口割合		46.7%
高齢者人口（65 歳以上）	971 人	高齢化率（高齢者人口割合）		45.2%
内、65～74 歳人口	394 人	65～74 歳人口割合		18.3%
内、75 歳以上人口	577 人	75 歳以上人口割合		26.9%
外国人住民数	26 人	外国人住民割合		1.2%
０歳児人数	８人			

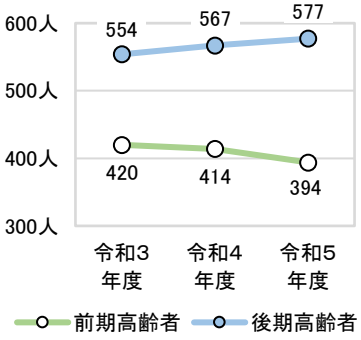
＜圏域内総人口の推移＞



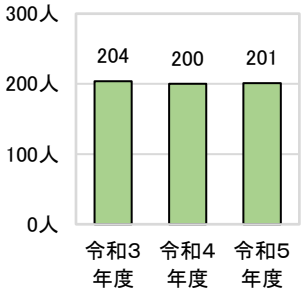
資料：住民基本台帳（各年度３月末）

＜高齢者の状況＞

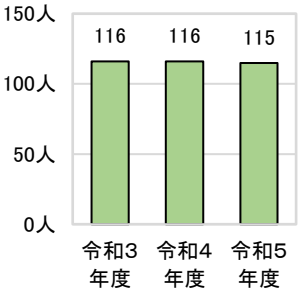
①高齢者数



②要介護認定者数



③認知症高齢者数（自立度Ⅱ以上）



資料：①住民基本台帳、②③東広島市介護保険台帳　各年度３月末

■福富地域カルテ（地域活動・地域資源）

＜地域資源の状況＞

住民自治協議会	3	見守りサポーター	28
地域センター	3	子育てサポーター	3
集会所	3	フレイル予防アドバイザー	0
高齢者サロン	25	生涯学習推進員	1
通いの場	15	スポーツ推進委員	1
こども食堂・地域食堂	1	コミュニティ健康運動パートナー	1
住民主体の支え合い活動	0	健康づくり推進委員	0
民生委員児童委員	9	スーパーマーケット	0
主任児童委員	1	コンビニエンスストア	1

＜子育て関係資源＞

地域すくすくサポート	1	子育て支援センター	1
児童館	0		

＜保育施設等＞

保育所（保育園）	0	幼稚園	0
認定こども園	2	その他(小規模保育事業・認可外保育施設)	0

＜教育関連施設＞

小学校	1	高等学校	0
中学校	1	大学	0
図書館	1	芸術文化施設	1
学習支援施設	0	スポーツ施設	3

＜高齢者関連施設（抜粋）＞

地域包括支援センター	1	居宅介護支援事業所	1
特別養護老人ホーム	1	介護老人保健施設	0
特定施設入居者生活介護	0		

＜障がい者関連施設（抜粋）＞

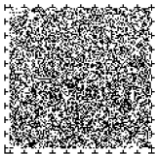
障がい者（児）相談支援事業所	0	生活介護	0
共同生活援助（グループホーム）	0		

＜医療機関＞

病院	0	歯科診療所	1
診療所	3		

＜防災関連施設＞

避難所	19	避難行動要支援者名簿登録者数	76
福祉避難所	0		



■住民から見た地域

＜地域懇談会での意見など＞

- 東広島市中心部だけでなく広島市内からもアクセスが良く、自然が豊かなところは地域の強み。
- 移住者が活躍されており、個性的で、ここにしかないような商品が魅力の店舗が多くある。
- 一方で、車中心の生活のため、老後の買い物や通勤をどうするか悩ましい。
- 地域のみんなが、世代を超えて繋がるための工夫をしていきたい。その際には地域の強み（豊かな自然）や、地域で大事にしてきた行事や遊び（田植え、しめ縄づくり、川遊び）を取り入れることで、地域の良さや、技術の伝承にもなると思う。
- 若い人の「やってみたい」をみんなでお手伝いできたら。難しいことは一旦置いて、もっと自由に気さくに語れる場が増えていくと良い。
- 地域のみんなが顔見知りであり、いい面もあるが、昔からのつながりがあるため、本当に困ったときに相談しづらいような雰囲気もある。

＜地域に関する課題と考えられるアンケート調査結果＞

【市民】

- 近所･地域の人との付き合いの程度は、「世間話をする程度の人がいる」が 37.8%で、全市（25.6%）、及び「親しく付き合っている人がいる」が 37.4%で、全市（20.9%）と、いずれも全市より高い
- 地域に愛着を感じている（「愛着を感じている」「どちらかといえば愛着を感じている」の合計）の割合（84.3%）が、全市（76.9%）に比べ高い
- 安心できる、気軽に行ける地域の場所や活動については、「ある」（38.7%）が、全市（28.2%）に比べ高く、地域での居場所では、全市と同様に「趣味などのサークル活動」が最も高く、（45.5%、全市 42.9%）、「ボランティア･社会貢献活動」は 22.6%で、全市（11.6%）、「身近なサロン･集いの場」も 20.7%で、全市（14.7%）に比べ高い
- 地域の福祉課題の関心状況については、「非常に関心がある」「どちらかといえば関心がある」の合計が 72.7%と全市（64.5%）に比べ高い
- 住んでいる地域の問題や課題では、「空き家の問題がある」（41.0%）が最も高く、そのほか「通院･買物などの移動手段が十分ではない」（37.1%）、「自治会などの役員のなり手、担い手が少ない」（32.3%）

【小中学生】

- 地域活動への参加状況については、「地域のお祭りなど」（90.3%）が最も高く、そのほか「小学校の活動･行事」（74.2%）、「自治会、こども会、老人クラブ等の活動･行事」（29.0%）
- 地域の印象として地域の人同士の助け合いが多いかについて、「そう思う」が 67.7%と全市（51.3%）に比べ高い
- 地域の印象として同世代のこどもが多いかについて、「そう思う」（16.1%）が全市（36.0%）に比べ低い

＜第 10 次東広島市高齢者福祉計画・第 9 期東広島市介護保険事業計画策定時に頂いた意見、調査結果＞

・よく会う友人知人との関係では「近所･同じ地域の人」（63.9％）が、全市（56.9％）に比べ高く、友人の家を訪ねている割合（55.0％）が、全市（46.5％）に比べ高い
・交通や商業の面で、少しずつ整備ができている面があるが、インフォーマルなサービスの利用も必要である

■福富圏域の主な地域課題を踏まえた取組みの方向性

《課題》

人口は減少傾向が続いており、高齢化率も令和５（2023）年度末で 45.2％と、市の中では比較的高齢者が多い地区であるが、移住者や若い世代が活発に活動していることから、こうした活動の支援や多世代交流などを進めていくことが必要

《取組みの方向性》

【施策 1-③「やってみたい」につながるきっかけづくり】

・地域で輝く人材の周知・情報発信

【施策 2-①「やってみたい」から「やってみた」につながる支援】

・地域課題解決につながる市民活動の立上げ支援

【施策 2-②「続けたい」「もっとよくしたい」に応える支援】

・地域人材のマッチング促進

《課題》

近所付き合いは、親しく付き合っている人がいる割合も高く、住民同士のつながりが強い一方で、顔見知りであるがために、困りごとを他者に相談しづらい傾向もあることから、地域で緩やかな見守り体制を整えていくことが必要

《取組みの方向性》

【施策１-①「学び」や「気づき」が増える取組み】

・気軽に「助けて」が言い合える相互理解の促進（「受援力」の向上）

【施策２-③インフォーマルな助け合いの促進と居場所づくり】

・地域の見守り、支え合い、居場所づくりの促進

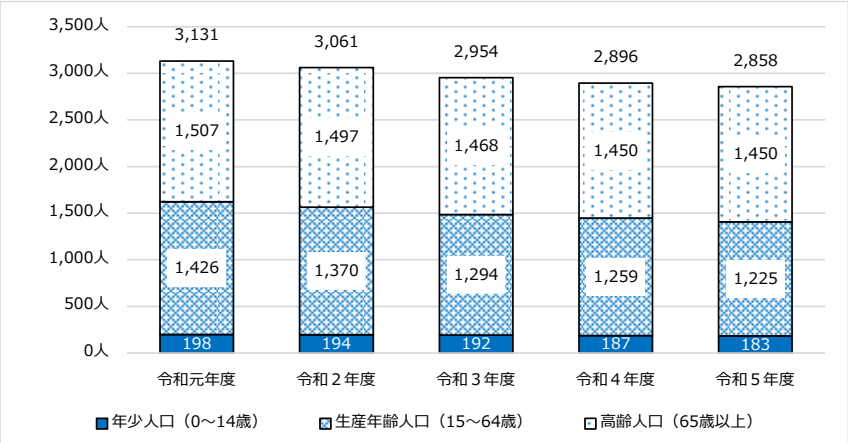
圏域	圏域の特徴
豊栄	市の北端に位置し、周囲を山林に取り囲まれた田園風景の中に集落が点在する地域となっている。

■地域の概要

○人口・世帯に関する基本情報（令和６（2024）年３月末時点）

人口（圏域内総人口）	2,858 人	男女別人口	男性：1,370 人	女性：1,488 人
世帯数	1,459 世帯	単独世帯		640 世帯
年少人口（15 歳未満）	183 人	年少人口割合		6.4%
生産年齢人口（15～64 歳）	1,225 人	生産年齢人口割合		42.9%
高齢者人口（65 歳以上）	1,450 人	高齢化率（高齢者人口割合）		50.7%
内、65～74 歳人口	574 人	65～74 歳人口割合		20.1%
内、75 歳以上人口	876 人	75 歳以上人口割合		30.7%
外国人住民数	58 人	外国人住民割合		2.0%
０歳児人数	４人			

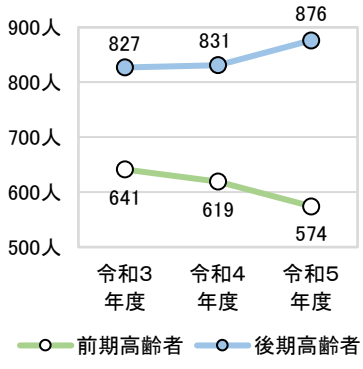
＜圏域内総人口の推移＞



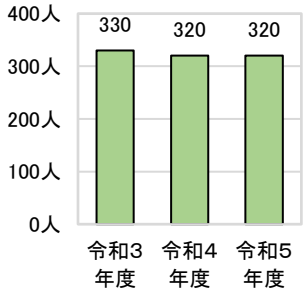
資料：住民基本台帳（各年度３月末）

＜高齢者の状況＞

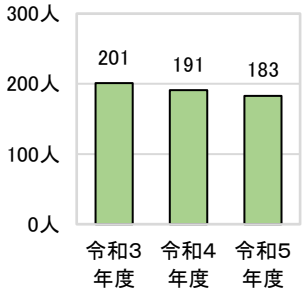
①高齢者数



②要介護認定者数



③認知症高齢者数（自立度Ⅱ以上）



資料：①住民基本台帳、②③東広島市介護保険台帳　各年度３月末

■豊栄地域カルテ（地域活動・地域資源）

＜地域資源の状況＞

住民自治協議会	6	見守りサポーター	34
地域センター	6	子育てサポーター	5
集会所	1	フレイル予防アドバイザー	2
高齢者サロン	25	生涯学習推進員	1
通いの場	7	スポーツ推進委員	5
こども食堂・地域食堂	0	コミュニティ健康運動パートナー	4
住民主体の支え合い活動	0	健康づくり推進委員	23
民生委員児童委員	14	スーパーマーケット	1
主任児童委員	2	コンビニエンスストア	3

＜子育て関係資源＞

地域すくすくサポート	1	子育て支援センター	1
児童館	0		

＜保育施設等＞

保育所（保育園）	0	幼稚園	0
認定こども園	1	その他(小規模保育事業・認可外保育施設)	1

＜教育関連施設＞

小学校	1	高等学校	1
中学校	1	大学	0
図書館	1	芸術文化施設	3
学習支援施設	1	スポーツ施設	8

＜高齢者関連施設（抜粋）＞

地域包括支援センター※	1	居宅介護支援事業所	2
特別養護老人ホーム	1	介護老人保健施設	0
特定施設入居者生活介護	0		

※北部(福富・豊栄・河内)地域包括支援センターを福富に設置

＜障がい者関連施設（抜粋）＞

障がい者（児）相談支援事業所	0	生活介護	0
共同生活援助（グループホーム）	0		

＜医療機関＞

病院	0	歯科診療所	0
診療所	1		

＜防災関連施設＞

避難所	20	避難行動要支援者名簿登録者数	135
福祉避難所	0		

■住民から見た地域

＜地域懇談会での意見など＞

- 過疎化に伴って地域行事等の担い手が減っている一方、みんなが顔見知りで、繋がりは濃いと思う。
- サロンに行く際には乗り合わせたり、来られなかった方には後日訪問したりしている。頼り合えること、日常的な支え合いが、当たり前にできていることが良い。
- 移住者もおり、彼らがイベントを開催するなど他地域の方との交流の機会もある。
- ヘアサロンや電気店など商店の数が限られている分、そこに人が集まり、情報も集まる。交流の場にもなるし、見守り･気にかけあいができる。
- 地域の集いを、これまでは夕方以降で開催していたが、より多くの方に来てもらいやすくするため、休日の昼に開催できないか検討している。

＜地域に関する課題と考えられるアンケート調査結果＞

【市民】

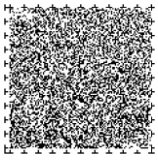
- 近所･地域の人との付き合いの程度は、「親しく付き合っている人がいる」が 37.8%で全市（20.9%）に比べ高い
- 地域の行事や町内活動などへの参加状況では、「お祭り･盆踊りなど」が 49.8%と全市（22.9%）に比べ高く、「参加したことがない」は 16.3%と低い（全市 33.7%）
- 安心できる、気軽に行ける地域の場所や活動については、「ある」（38.4%）が全市（28.2%）に比べ高く、居場所の内容では、「自治会･老人クラブなどの地域活動」（20.8%）が、全市（14.5%）に比べ高い
- 地域の福祉課題への関心状況は、「関心がある」（「非常に関心がある」「どちらかといえば関心がある」の合計）が 73.4%と全市（64.5%）に比べ高い
- 住んでいる地域の問題や課題では、「空き家の問題がある」（47.7%）が最も高く、次いで「自治会などの役員のなり手、担い手が少ない」（34.9%）、「通院･買物などの移動手段が十分ではない」（30.2%）となっており、いずれも全市に比べ高い
- 孤独と感じることがある（「たまにある」「時々ある」「しばしば･常にある」の合計）の割合（54.2%）が、全市（41.4%）に比べ高い

【小中学生】

- 近所で会話をする大人の有無について、「あいさつだけでなく、話をしたりする人がいる」（50.0%）が全市（36.6%）に比べ高い
- 地域の印象として困った時に相談できる大人がいるかについて、「そう思わない」（25.5%）が全市（8.5%）に比べ高い

＜第 10 次東広島市高齢者福祉計画・第 9 期東広島市介護保険事業計画策定時に頂いた意見、調査結果＞

- 「１人暮らし」の割合（24.8%）が全市（19.6%）に比べ高い
- よく会う友人知人との関係では、「近所･同じ地域の人」（65.6%）が全市（56.9%）に比べ高い
- 商業の面で不便なこともあり、市外の商業施設も利用している



■豊栄圏域の主な地域課題を踏まえた取組みの方向性

《課題》

人口は減少傾向が続き、高齢化率が令和５（2023）年度末で 50.7%と、市内で最も高くなっている地域であり、行事等の後継者や地域の担い手不足が課題となっている一方で、小中学生による高齢者に対するボランティアの参加経験が多いなどの特徴もあることから、引き続き、世代を超えた連携を図っていくことが必要

《取組みの方向性》

【施策１-①「学び」や「気づき」が増える取組み】

・豊かな心を育む福祉教育の推進

【施策 1-③「やってみたい」につながるきっかけづくり】

・地域課題解決につながる学習機会の充実

【施策 2-①「やってみたい」から「やってみた」につながる支援】

・地元企業や学生、児童生徒との協働促進

《課題》

「親しく付き合っている人がいる」と回答した割合も高く、住民同士のつながりが強い一方で、孤独と感じることがある割合が高く、顔見知りであるがために、困りごとを他者に相談しない傾向がある

《取組みの方向性》

【施策１-①「学び」や「気づき」が増える取組み】

・気軽に「助けて」が言い合える相互理解の促進（「受援力」の向上）

【施策３-③「小さな声」を聞き逃さない支援】

・孤独・孤立対策の推進

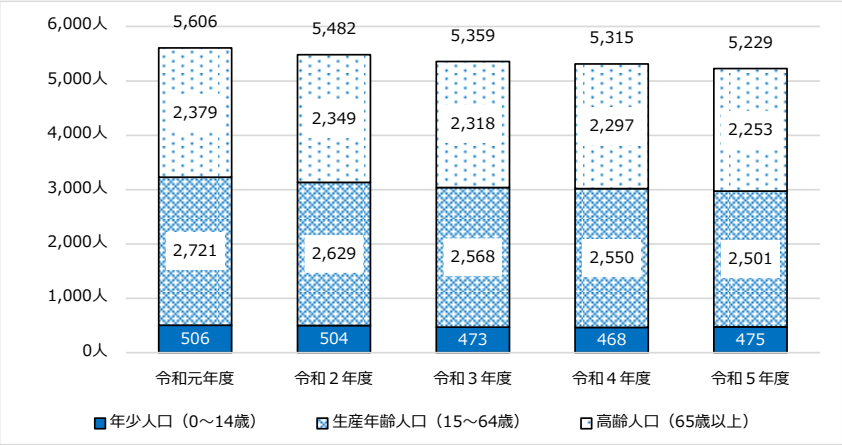
圏域	圏域の特徴
河内	市の東部に位置し、圏域南部には大規模な工業団地や住宅団地などが整備され、沼田川とその支流沿いに広がる平野部と北部地域には集落が点在し田園風景が広がっている。

■地域の概要

○人口・世帯に関する基本情報（令和６（2024）年３月末時点）

人口（圏域内総人口）	5,229 人	男女別人口	男性：2,530 人	女性：2,699 人
世帯数	2,536 世帯	単独世帯		1,031 世帯
年少人口（15 歳未満）	475 人	年少人口割合		9.1%
生産年齢人口（15～64 歳）	2,501 人	生産年齢人口割合		47.8%
高齢者人口（65 歳以上）	2,253 人	高齢化率（高齢者人口割合）		43.1%
内、65～74 歳人口	924 人	65～74 歳人口割合		17.7%
内、75 歳以上人口	1,329 人	75 歳以上人口割合		25.4%
外国人住民数	66 人	外国人住民割合		1.3%
０歳児人数	18 人			

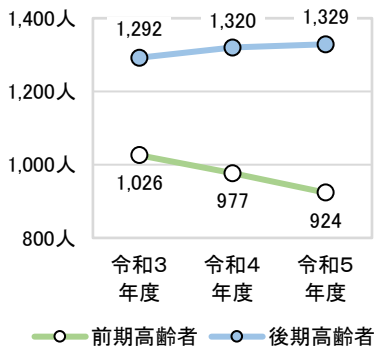
＜圏域内総人口の推移＞



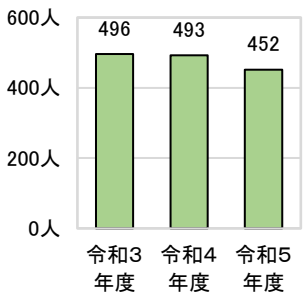
資料：住民基本台帳（各年度３月末）

＜高齢者の状況＞

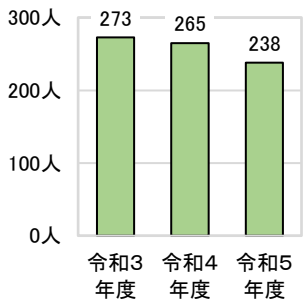
①高齢者数



②要介護認定者数



③認知症高齢者数（自立度Ⅱ以上）



資料：①住民基本台帳、②③東広島市介護保険台帳　各年度３月末

■河内地域カルテ（地域活動・地域資源）

＜地域資源の状況＞

住民自治協議会	6	見守りサポーター	54
地域センター	6	子育てサポーター	5
集会所	4	フレイル予防アドバイザー	5
高齢者サロン	28	生涯学習推進員	1
通いの場	17	スポーツ推進委員	7
こども食堂・地域食堂	0	コミュニティ健康運動パートナー	2
住民主体の支え合い活動	0	健康づくり推進委員	0
民生委員児童委員	22	スーパーマーケット	1
主任児童委員	2	コンビニエンスストア	1

＜子育て関係資源＞

地域すくすくサポート	1	子育て支援センター	2
児童館	0		

＜保育施設等＞

保育所（保育園）	2	幼稚園	0
認定こども園	0	その他(小規模保育事業・認可外保育施設)	0

＜教育関連施設＞

小学校	2	高等学校	1
中学校	1	大学	0
図書館	1	芸術文化施設	1
学習支援施設	0	スポーツ施設	6

＜高齢者関連施設（抜粋）＞

地域包括支援センター※	1	居宅介護支援事業所	1
特別養護老人ホーム	2	介護老人保健施設	1
特定施設入居者生活介護	0		

※北部(福富・豊栄・河内)地域包括支援センターを福富に設置

＜障がい者関連施設（抜粋）＞

障がい者（児）相談支援事業所	0	生活介護	0
共同生活援助（グループホーム）	0		

＜医療機関＞

病院	1	歯科診療所	1
診療所	2		

＜防災関連施設＞

避難所	31	避難行動要支援者名簿登録者数	202
福祉避難所	1		

■住民から見た地域

＜地域懇談会での意見など＞

- 地域の住民同士の声かけが大切だと思う。「電気がついているか？」等、さりげない見守りを続けていきたい。
- 地元企業の社員さんが、小学校の登下校時に見守り活動をされていることを、地域懇談会を通じて知った。こうした企業とのコミュニケーションを進めていきたい。
- 加齢によってサロン活動や老人会活動ができなくなっている方が増えてきたが、地域で話し合い、お茶を飲みつつ無理なく、緩やかに交流できる場づくりにつながった。

＜地域に関する課題と考えられるアンケート調査結果＞

【市民】

- 近所･地域の人との付き合いの程度は、「親しく付き合っている人がいる」（31.6%）で、全市は（20.9%）、「世間話をする程度の人がいる」（31.0%）で、全市（25.6%）と、全市に比べ高い
- 地域の行事や町内活動などへの参加状況では、「自治会活動」（57.7%）が、全市（45.6%）に比べ高く、「お祭り･盆踊りなど」も 29.0%と、全市（22.9%）に比べ高く、「参加したことがない」は 15.3%と低い
- 安心できる、気軽にいける地域の場所や活動については、「ある」（37.1%）が、全市（28.2%）に比べ高く、地域での居場所としては、全市と同様に「趣味などのサークル活動」（54.9%）が最も高くなっており、全市（42.9%）と比べても高く、「身近なサロン･集いの場」（26.5%）は、全市（14.7%）、「自治会・老人クラブなどの地域活動」（21.1%）は、全市（14.5%）と、全市に比べ高い
- 地域の福祉課題への関心状況について、関心がある割合（「非常に関心がある」「どちらかといえば関心がある」の合計）が 71.1%で、全市（64.5%）に比べ高い
- 住んでいる地域の問題や課題では、「通院･買物などの移動手段が十分ではない」（39.4%）、「自治会などの役員のなり手、担い手が少ない」（38.3%）、「空き家の問題がある」（32.4%）が上位で、いずれも全市に比べ高い

【小中学生】

- ボランティア活動の参加経験として、「お年寄りの声かけや見守り、話し相手」（35.7%、全市 16.9%）「小さい子のお世話、遊び相手」（39.3%、全市 26.1%）、「世界の国のことの学習･外国の人との交流」（41.1%、全市 12.5%）が、全市に比べ高い
- 地域の印象として地域の人同士の助け合いが多いかについて、「そう思う」（62.5%）が、全市（51.3%）に比べ高い
- 地域の印象として買い物が便利かについて、「そう思う」が 3.6%で、全市（42.2%）に比べ大幅に低く、「そう思わない」が 85%を超えている
- 家や学校以外の居場所について、「ある」は（76.8%）で、全市（66.1%）、居場所の内容についてでは、「オンライン空間」が 51.2%で、全市（36.4%）、「学校の教室以外の場所」は（39.5%）で、全市（19.8%）に比べ高い

＜第 10 次東広島市高齢者福祉計画・第 9 期東広島市介護保険事業計画策定時に頂いた意見、調査結果＞

・「1 人暮らし」の割合（25.3%）が全市（19.6%）に比べ高い
・ご近所同士の交流や助け合いなどについては、「自治会などによる地域活動がある」（49.0%）が全市（43.4%）に比べ高い

■河内圏域の主な地域課題を踏まえた取組みの方向性

《課題》

人口は減少傾向が続き、高齢化率も令和５（2023）年度末で 43.3%と高く、また、高齢者に占める一人暮らしの割合も比較的高いことから、地域による見守りや、地域から孤立しないような取組みが必要

《取組みの方向性》

【施策２-③インフォーマルな助け合いの促進と居場所づくり】
・地域の見守り、支え合い、居場所づくりの促進

【施策３-③「小さな声」を聞き逃さない支援】
・孤独・孤立対策の推進

《課題》

地域の行事や活動への参加が活発である一方、地域の担い手不足が顕著であることから、地元企業や高校等の地域資源を活用した取組みを進めるとともに、世代交代を含めた人材育成が必要

《取組みの方向性》

【施策 1-③「やってみたい」につながるきっかけづくり】
・地域課題解決につながる学習機会の充実
・地域で輝く人材の周知・情報発信

【施策 2-①「やってみたい」から「やってみた」につながる支援】
・地域課題解決につながる市民活動の立上げ支援
・地元企業や学生、児童生徒との協働促進

【施策 2-②「続けたい」「もっとよくしたい」に応える支援】
・地域人材のマッチング促進

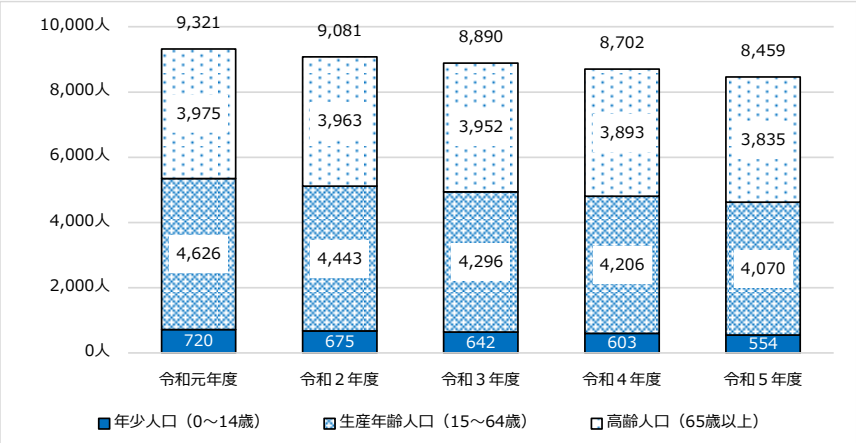
圏域	圏域の特徴
安芸津	市の南部に位置し、本市における海の玄関口として、三津湾を囲むように沿岸部から内陸部にかけて市街地が広がっている。

■地域の概要

○人口・世帯に関する基本情報（令和６年（2024）３月末時点）

人口（圏域内総人口）	8,459 人	男女別人口	男性：4,040 人	女性：4,419 人
世帯数	4,241 世帯	単独世帯		1,767 世帯
年少人口（15 歳未満）	554 人	年少人口割合		6.5%
生産年齢人口（15～64 歳）	4,070 人	生産年齢人口割合		48.1%
高齢者人口（65 歳以上）	3,835 人	高齢化率（高齢者人口割合）		45.3%
内、65～74 歳人口	1,505 人	65～74 歳人口割合		17.8%
内、75 歳以上人口	2,330 人	75 歳以上人口割合		27.5%
外国人住民数	268 人	外国人住民割合		3.2%
0 歳児人数	13 人			

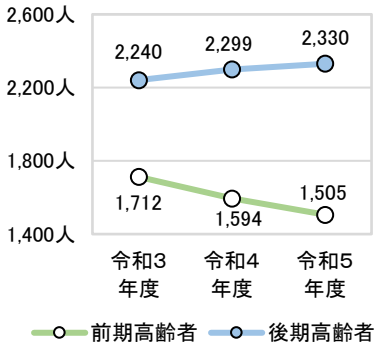
＜圏域内総人口の推移＞



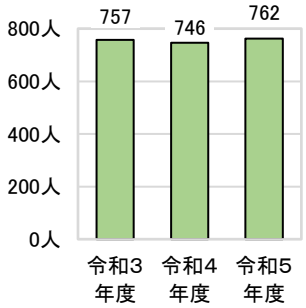
資料：住民基本台帳（各年度３月末）

＜高齢者の状況＞

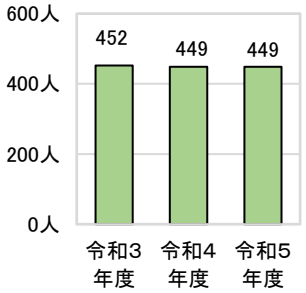
①高齢者数



②要介護認定者数



③認知症高齢者数（自立度Ⅱ以上）



資料：①住民基本台帳、②③東広島市介護保険台帳　各年度３月末

■安芸津地域カルテ（地域活動・地域資源）

＜地域資源の状況＞

住民自治協議会	6	見守りサポーター	118
地域センター	2	子育てサポーター	8
集会所	2	フレイル予防アドバイザー	3
高齢者サロン	26	生涯学習推進員	3
通いの場	24	スポーツ推進委員	11
こども食堂・地域食堂	2	コミュニティ健康運動パートナー	7
住民主体の支え合い活動	0	健康づくり推進委員	0
民生委員児童委員	30	スーパーマーケット	4
主任児童委員	2	コンビニエンスストア	5

＜子育て関係資源＞

地域すくすくサポート	1	子育て支援センター	1
児童館	1		

＜保育施設等＞

保育所（保育園）	3	幼稚園	0
認定こども園	1	その他(小規模保育事業・認可外保育施設)	1

＜教育関連施設＞

小学校	3	高等学校	1
中学校	1	大学	0
図書館	1	芸術文化施設	1
学習支援施設	1	スポーツ施設	4

＜高齢者関連施設（抜粋）＞

地域包括支援センター	1	居宅介護支援事業所	3
特別養護老人ホーム	1	介護老人保健施設	1
特定施設入居者生活介護	1		

＜障がい者関連施設（抜粋）＞

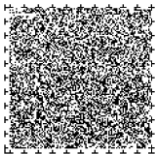
障がい者（児）相談支援事業所	0	生活介護	1
共同生活援助（グループホーム）	0		

＜医療機関＞

病院	1	歯科診療所	4
診療所	4		

＜防災関連施設＞

避難所	32	避難行動要支援者名簿登録者数	327
福祉避難所	2		



■住民から見た地域

＜地域懇談会での意見など＞

- 地区の規模が小さいので、地区全体が顔見知りであることは強み。
- サロン活動などで参加者が固定化しつつある（世話人の担い手も含め）。もっと男性の参加を充実させたい。男性向けの料理教室をやってみたら良いのではないか。
- 地域センターを交流の場として、さらに活用していきたい。

＜地域に関する課題と考えられるアンケート調査結果＞

【市民】

- 近所･地域の人との付き合いの程度は、「世間話をする程度の人がいる」が 36.7%で全市（25.6%）より高く、「ほとんど付き合いがない」は 9.3%で、全市（17.1%）に比べ低い
- 安心できる、気軽に行ける地域の場所や活動については、「ある」（42.0%）が、全市（28.2%）に比べ高く、地域での居場所は、全市と同様に「趣味などのサークル活動」が最も高く（33.1%、全市 42.9%）、「身近なサロン･集いの場」（24.2%）も、全市（14.7%）に比べ高い
- 住んでいる地域の問題や課題では、「自治会などの役員のなり手、担い手が少ない」（30.2%）が最も高く、次いで「通院･買物などの移動手段が十分ではない」（29.3%）、「空き家の問題がある」（25.3%）、「住民同士の助け合い活動が少ない」（23.0%）、「一人暮らしの高齢者の生活支援が十分ではない」（22.7%）
- 近所付き合いの中で手助けをしてもらいたいことでは、「災害時における避難等の手助け」（34.2%）、「安否確認の声かけ･見守り」（27.3%）、「話し相手」（15.5%）が上位
- 「孤独であると感じることがある」の割合（「時々ある」「しばしばある･常にある」の合計）が 52.3%と半数を超えており、全市（41.4%）に比べ高い

【小中学生】

- 近所で会話をする大人の有無について、「あいさつだけでなく、話をしたりする人がいる」（42.5%）が、全市（36.6%）に比べ高い
- 地域の印象として遊び場や公園などが多いかについて、「そう思わない」（78.1%）が、全市（56.4%）に比べ高い
- 地域の印象として交通の便が良いかについて、「そう思う」（23.3%）が、全市（33.7%）に比べ低い

＜第 10 次東広島市高齢者福祉計画・第 9 期東広島市介護保険事業計画策定時に頂いた意見、調査結果＞

- 地域活動に参加していない割合が、全市に比べ高い
- 外出頻度が「週５回以上」が 37.0%と、全市に比べ高い
- 移動手段では、車の割合が全市に比べ低く「自転車」が全市に比べやや高い
- 地域活動の主体も高齢者が多く、次世代に繋げることが課題
- サロンなどに参加するにも、交通が不便で、参加が難しいケースもある
- インフォーマルなサービスが少ない

■安芸津圏域の主な地域課題を踏まえた取組みの方向性

《課題》

人口は減少傾向が続き、高齢化率は令和５（2023）年度末で 45.3%と、市内で２番目に高い地域であり、行事等の後継者や地域の担い手不足が課題となっている一方で、地域内に高等学校があること、また、見守りサポーターが多数いるなど、学校・行政・地域との連携を促進することが必要

《取組みの方向性》

【施策１-①「学び」や「気づき」が増える取組み】

・豊かな心を育む福祉教育の推進

【施策 1-③「やってみたい」につながるきっかけづくり】

・地域課題解決につながる学習機会の充実

【施策 2-①「やってみたい」から「やってみた」につながる支援】

・地元企業や学生、児童生徒との協働促進

《課題》

世間話をする程度の人がいる割合が全市に比べ高く、外出する頻度が高い人も多いが、地域活動の参加割合が低く、また、孤独であると感じる割合が高い

《取組みの方向性》

【施策１-①「学び」や「気づき」が増える取組み】

・気軽に「助けて」が言い合える相互理解の促進（「受援力」の向上）

【施策 2-②「続けたい」「もっとよくしたい」に応える支援】

・住民自治協議会をはじめとする地域コミュニティの活動支援

【施策３-③「小さな声」を聞き逃さない支援】

・孤独・孤立対策の推進